

令和6年度 道路局 予算概要について

令和6年度 道路局予算概要は、次のとおりです。

道路局主要事業

横浜市がめざす「子育てしたいまち」を実現するため、横浜経済の活性化とともに市民生活の安全・安心を支える強靱な都市基盤の構築や脱炭素社会の形成に向けて、渋滞対策や交通安全対策、地震・治水対策・老朽化対策や自転車活用などをDXに取り組みながら推進し、住み続けたい都市・選ばれる都市を目指し、「チーム道路」の総力を結集させて取り組みます。

施策1 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備 [P3]

- 広域的な道路ネットワークの形成
- 市内道路ネットワークの充実

施策2 市民生活の安全・安心の確保 [P10]

- 誰もが安全・安心に利用できる道路空間
- 防災・減災対策
- 計画的な保全・更新・維持管理

施策3 魅力あるまち・みちづくり [P28]

- 自転車施策の推進
- 駅周辺の移動環境の確保
- まちの魅力創出
- 財源確保の取組

お問合せ先		
道路局総務課長	山下 隆幸	Tel 045-671-2742

道路局 お問合せ先一覧(1/2)

事業名	担当	電話番号
I 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備		
1 広域的な道路ネットワークの形成		
	横浜環状道路調整課長	村田 功 671-3985
	横浜環状道路調整課横浜環状道路調整担当課長(南線、横浜湘南道路)	大橋 男 671-2889
	横浜環状道路調整課横浜環状道路調整担当課長(北西線、南線関連街路)	小田 英隆 671-2734
2 市内道路ネットワークの充実		
(1)都市計画道路の整備	事業推進課長	青木 隆浩 671-2937
	企画課長	樽川 正弘 671-2746
	建設課長	梅津 彰 671-2747
(2)連続立体交差事業	建設課鉄道交差調整担当課長	土村 浩二 671-2757
(3)国道の整備	事業推進課長	青木 隆浩 671-2937
	建設課長	梅津 彰 671-2747
(4)道路改良	維持課長	本橋 康武 671-2750
(5)深谷通信所跡地利用関連道路計画検討	企画課長	樽川 正弘 671-2746
II 市民生活の安全・安心の確保		
1 誰もが安全・安心に利用できる道路空間		
(1)子どもの通学路交通安全対策事業	交通安全・自転車政策課長	石井 高幸 671-2775
	施設課長	藤江 千瑞 671-3557
(2)交通安全施設の整備・補修	施設課長	藤江 千瑞 671-3557
	施設課バリアフリー対策等担当課長	小島 岳生 671-3559
(3)交通安全教育・啓発事業	交通安全・自転車政策課長	石井 高幸 671-2775
(4)私道対策	維持課長	本橋 康武 671-2750
	路政課長	岡本 栄里 671-2743
(5)踏切の安全対策		
(6)連続立体交差事業	建設課鉄道交差調整担当課長	土村 浩二 671-2757
2 防災・減災対策		
(1)地震対策	橋梁課長	井田 剛 671-2752
	施設課長	藤江 千瑞 671-3557
	事業推進課長	青木 隆浩 671-2937
(2)道路がけ防災対策事業	施設課長	藤江 千瑞 671-3557
(3)道路がけ緊急防災対策事業	施設課長	藤江 千瑞 671-3557
(4)無電柱化推進事業	企画課長	樽川 正弘 671-2746
	施設課長	藤江 千瑞 671-3557
	建設課長	梅津 彰 671-2747
(5)河川整備	河川事業課長	時尾 嘉弘 671-3981
(6)水防事業	河川企画課長	中島 智彦 671-2818
3 計画的な保全・更新・維持管理		
(1)施設の老朽化対策	橋梁課長	井田 剛 671-2752
	施設課長	藤江 千瑞 671-3557
	河川企画課長	中島 智彦 671-2818
	河川事業課長	時尾 嘉弘 671-3981
(2)道路修繕	維持課長	本橋 康武 671-2750
(3)街路樹・植樹帯の管理	施設課長	藤江 千瑞 671-3557
(4)道路施設の管理	施設課長	藤江 千瑞 671-3557
	施設課バリアフリー対策等担当課長	小島 岳生 671-3559
	管理課長	南 正也 671-2753
	道路調査課長	川北 好伸 671-2744
(5)市営自動車駐車場の管理運営	施設課バリアフリー対策等担当課長	小島 岳生 671-3559
(6)河川水路等施設の管理	河川企画課長	中島 智彦 671-2818
	河川管理課長	高野 政和 671-2819

(裏面あり)

道路局 お問合せ先一覧(2/2)

事業名	担当	電話番号
Ⅲ 魅力あるまち・みちづくり		
1 自転車施策の推進		
(1)横浜市広域シェアサイクル事業社会実験	交通安全・自転車政策課長	石井 高幸 671-2775
(2)自転車通行空間の整備	施設課/バリアフリー対策等担当課長	小島 岳生 671-3559
(3)市営自転車駐車場の管理運営等	交通安全・自転車政策課長	石井 高幸 671-2775
	施設課/バリアフリー対策等担当課長	小島 岳生 671-3559
(4)自転車等放置防止対策	交通安全・自転車政策課長	石井 高幸 671-2775
(5)自転車の交通ルール等の周知・啓発		
2 駅周辺の移動環境の確保		
(1)歩行空間の改善・拡充	施設課/バリアフリー対策等担当課長	小島 岳生 671-3559
	企画課長	樽川 正弘 671-2746
(2)駅周辺の魅力と利便性の向上	企画課長	樽川 正弘 671-2746
3 まちの魅力創出		
(1)健康みちづくり推進事業	企画課長	樽川 正弘 671-2746
(2)みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路の再整備	企画課長	樽川 正弘 671-2746
(3)市民参加による河川環境の創出	河川企画課長	中島 智彦 671-2818
(4)市民協働による美化活動の推進	管理課長	南 正也 671-2753
	河川企画課長	中島 智彦 671-2818
4 財源確保の取組		
(1)高架下等有効活用事業	事業推進課長	青木 隆浩 671-2937
(2)広告事業		
(3)道路施設におけるネーミングライツ事業		
(4)道路事業予定地の利活用	事業推進課長	青木 隆浩 671-2937
	建設課長	梅津 彰 671-2747
(5)雨水調整池上部空間の利活用	河川企画課長	中島 智彦 671-2818

令和6年度

予 算 概 要

道 路 局

<コラム一覧>

コラム①	圏央道の整備状況と横浜環状南線・横浜湘南道路について	5頁
コラム②	(仮称)公田ICに接続する上郷公田線工事を推進中	5頁
コラム③	都市計画道路の整備を推進しています	6頁
コラム④	安全かつ円滑にシールドトンネル工事を進めるための体制	7頁
コラム⑤	子どもの通学路交通安全対策事業	12頁
コラム⑥	鶴見川人道橋 早期完成を目指して施工中!	14頁
コラム⑦	市民ニーズを捉えた災害対策への取組	15頁
コラム⑧	大規模地震時の道路啓開について	15頁
コラム⑨	大規模災害時の道路啓開における高解像度衛星画像の活用	16頁
コラム⑩	災害への備え～震災対策訓練と防災協定～	16頁
コラム⑪	時間降雨量約60mm対応の河川を順次拡大! ～高まる自然災害リスクに対し新たなステージへ～	17頁
コラム⑫	水難事故防止のための普及啓発活動(出前講座・イベント出展)	20頁
コラム⑬	「横浜市水防災情報のページ」はさらに便利に進化しています!	20頁
コラム⑭	橋梁維持管理の「事後保全」から「予防保全」への転換に向けて	21頁
コラム⑮	河川環境施設の再整備に向けた基本構想策定	22頁
コラム⑯	建設業の働き方改革への対応	23頁
コラム⑰	街路樹による良好な景観づくり	24頁
コラム⑱	道路照明灯のLED化により、脱炭素化を推進します	25頁
コラム⑲	河道等安全確保緊急対策事業による対策強化! ～河川・水路・雨水調整池等の治水安全度の確保～	26頁
コラム⑳	河川等の土砂堆積量の把握と分析 ～デジタル技術の活用～	27頁
コラム㉑	雨水調整池を活用したオフサイトPPA事業により、 脱炭素化を推進します	27頁
コラム㉒	駅周辺のバリアフリー化について	29頁
コラム㉓	みなと大通りの歩道再整備による賑わいの創出	30頁
コラム㉔	皆様の寄附(ふるさと納税)を活用して事業を進めていきます	31頁
コラム㉕	「水辺愛護会、ハマロード・サポーター全体交流会」について	32頁
コラム㉖	DX実現に向けた取組	33頁

令和6年度 道路局予算案について

1 基本目標

横浜市がめざす「子育てしたいまち」を実現するため、横浜経済の活性化とともに市民生活の安全・安心を支える強靱な都市基盤の構築や脱炭素社会の形成に向けて、渋滞対策や交通安全対策、地震・治水対策・老朽化対策や自転車活用などをDXに取り組みながら推進し、住み続けたい都市・選ばれる都市を目指し、「チーム道路」の総力を結集させて取り組みます。

2 目標達成に向けた施策

(1) 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備 ～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～

横浜環状道路の早期整備を実現することで、高速道路ネットワークを充実させ、横浜港の国際競争力の強化をはじめとする広域的なアクセス性の強化、災害時の代替道路の確保、幹線道路における渋滞の緩和などを図ります。加えて、都市計画道路等の整備、「開かずの踏切」の解消に向けた連続立体交差事業を推進することで、主要渋滞箇所の削減をめざし、横浜経済の活性化や市民生活の利便性・安全性向上を図ります。

(2) 市民生活の安全・安心の確保 ～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～

通学路における子どもの交通事故死ゼロを目指し、ビッグデータや事故データ等を活用・分析した予防保全型の交通安全対策を推進するなど、子どもから高齢者まで誰もが安全に利用できる道路空間を実現します。

激甚化する自然災害や切迫する巨大地震による被害を最小限に抑えるため、橋梁や歩道橋の地震対策事業や無電柱化推進事業、道路がけ防災対策事業、河川改修事業や水防事業等、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を着実に進めます。

老朽化する施設が増加する中であっても、橋梁や歩道橋、河川施設等について、点検結果を踏まえた計画的な保全・更新により、効率的かつ効果的な維持管理を行い、将来にわたる安全性の確保を図ります。また、タブレット端末を活用した現場業務のオンライン化やAI解析による河川の堆積土砂量の把握などDXを推進し、市民・事業者の利便性向上を図ります。

(3) 魅力あるまち・みちづくり ～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～

市内広域でのシェアサイクル事業社会実験や自転車通行空間の整備を推進するとともに、バリアフリー歩行空間の整備など、移動環境の充実を図ります。

「ハマロード・サポーター」や「水辺愛護会」など、市民・事業者・学校と協働して良好な道路・河川環境を保ちます。



横浜環状南線・横浜湘南道路
(高架橋整備: 栄IC・JCT)



都市計画道路整備事業
(令和4年度開通: 鴨居上飯田線)



通学路の交通安全対策
速度抑制対策: 瀬谷区原小学校周辺



河川改修
(護岸整備: 日野川)



横浜市広域シェアサイクル事業社会実験
(シェアサイクルポート設置状況: 清水ヶ丘公園)

3 予算総括表

<一般会計>

令和6年度の一般会計における当初予算と令和5年度12月補正及び2月補正予算の一部を含めた予算額は、750億8,758万円、対前年度比2億7,415万円、0.4%の減となっています。

なお、道路費負担金の予算を除くと711億640万円、対前年度比4億3,284万円、0.6%の増となります。

(単位：千円)

科目	令和6年度 当初予算額 (A)	令和5年度 12月・2月補正予 算の一部 (B)	令和5年度 12月・2月補正予算 の一部を含めた額 (A)+(B)=(C)	令和5年度予算 (2月補正予算の 一部を含む) (D)	増▲減額 (C)-(D)	増▲減率
歳出	71,357,327 (67,433,660)	3,730,250	75,087,577 (71,163,910)	75,361,731 (70,731,069)	▲274,154 (432,841)	▲0.4% (0.6%)
13款 道路費	66,253,843	2,623,250	68,877,093	69,128,866	▲251,773	▲0.4%
1項 道路維持管理費	25,196,964	1,000,000	26,196,964	25,689,593	507,371	2.0%
2項 道路整備費	41,056,879	1,623,250	42,680,129	43,439,273	▲759,144	▲1.7%
14款 河川費	4,438,132	1,107,000	5,545,132	5,466,769	78,363	1.4%
19款 諸支出金	665,352	0	665,352	766,096	▲100,744	▲13.2%

財源内訳	71,357,327	3,730,250	75,087,577	75,361,731	▲274,154	▲0.4%
特定財源	42,501,928	2,726,387	45,228,315	45,728,294	▲499,979	▲1.1%
国庫支出金	12,106,000	1,195,387	13,301,387	13,298,704	2,683	0.0%
県支出金	766,580	339,000	1,105,580	1,063,580	42,000	3.9%
使用料及び手数料	9,569,910	0	9,569,910	9,581,813	▲11,903	▲0.1%
諸収入等	3,782,438	100,000	3,882,438	3,817,197	65,241	1.7%
市債	16,277,000	1,092,000	17,369,000	17,967,000	▲598,000	▲3.3%
一般財源	28,855,399	1,003,863	29,859,262	29,633,437	225,825	0.8%

※()内の数字については、道路費負担金にかかる事業費を除いています。

<自動車駐車場事業費会計>

令和6年度の自動車駐車場事業費会計の予算額は、2億5,943万円、対前年度比9,137万円、26.0%の減となっています。

(単位：千円)

科目	令和6年度 当初予算額 (A)	令和5年度 当初予算額 (B)	増▲減額 (A)-(B)	増▲減率
歳出	259,428	350,799	▲91,371	▲26.0%
1款 自動車駐車場事業費	259,428	350,799	▲91,371	▲26.0%
1項 運営費	199,173	212,175	▲13,002	▲6.1%
2項 公債費	55,255	133,624	▲78,369	▲58.6%
3項 予備費	5,000	5,000	0	0.0%

財源内訳	259,428	350,799	▲91,371	▲26.0%
特定財源	144,173	113,840	30,333	26.6%
諸収入等	144,173	113,840	30,333	26.6%
一般会計繰入金	115,255	236,959	▲121,704	▲51.4%

主な事業・取組

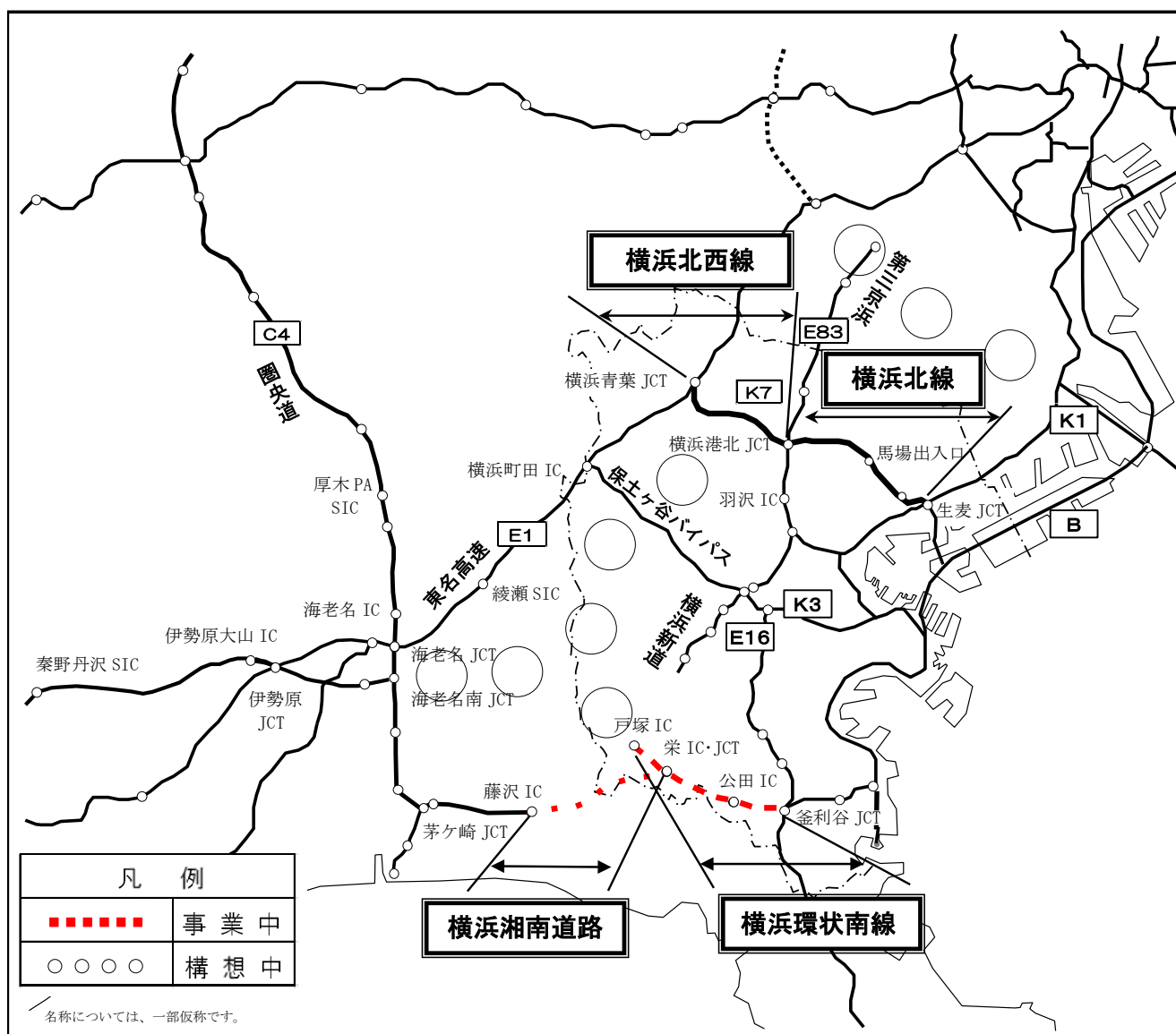
I 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備 ～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～

1 広域的な道路ネットワークの形成

横浜環状道路等の整備 168億9,770万円（192億9,104万円）

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の一部を構成する横浜環状南線及び横浜湘南道路の整備促進を図ります。

また、横浜北西線において、事業費平準化のため実施した立替施行に伴う支払いを行います。（令和6年度完了）



ア 横浜環状南線・横浜湘南道路 53億9,770万円（76億9,104万円）

国土交通省及び東日本高速道路株式会社と連携し、事業推進に取り組みます。

また、横浜環状南線・横浜湘南道路の各インターチェンジに接続する関連街路（上郷公田線、田谷線、横浜藤沢線、環状3号線）の整備を進めます。



(仮称)戸塚IC築造工事(戸塚区原宿/国道1号吹上交差点付近)



(仮称)栄IC・JCT築造工事(栄区田谷町)環状4号線田谷交差点付近



(仮称)公田IC築造工事(栄区公田町)公田小学校下交差点付近



釜利谷JCT改築工事(金沢区釜利谷町)横浜横須賀道路釜利谷JCT付近

写真提供: 国土交通省・東日本高速道路株式会社

コラム① 圏央道の整備状況と横浜環状南線・横浜湘南道路について



圏央道は、都心から半径約40～60km、延長約300kmの高規格道路で、全線の約9割が開通しています。

本道路の順次開通等により、都心から圏央道へ交通が転換しており、首都圏の物流が大幅に改善するとともに、大型物流施設等の民間投資も誘発しています。

引き続き、工事の安全安心な施工を最優先としつつ、早期開通を事業者に働きかけていきます。

図面:「よこかんみなみHP」(東日本高速道路株式会社)資料を加工し作成

コラム② (仮称) 公田 I C に接続する上郷公田線工事を推進中

上郷公田線は、(仮称) 公田 I C で横浜環状南線に接続する延長3.2kmの路線で、環状4号線の渋滞緩和や栄区内の交通利便性の向上が期待できます。

上郷公田線の公田地区では、桂町トンネル(延長331m)の躯体が令和6年3月に完成予定です。引き続き、令和6年度は桂町トンネルから(仮称) 公田 I C までの区間に着手します。



※ 名称については一部仮称です。



桂町トンネル工事

イ 横浜北西線 115億円 (116億円)

横浜北西線事業では、事業費負担の平準化のため、首都高速道路株式会社が事業費の一部を立て替える立替施行を実施しており、令和6年度で支払いが完了します。

2 市内道路ネットワークの充実

(1) 都市計画道路の整備【一部再掲】 **93億5,359万円 <99億5,884万円> (77億8,979万円)**
 市域の一体性を高めながら都市機能の強化を図るため、都市計画道路の整備を進めます。
 また、事業化に向けた測量・設計を進めます。

- ・鴨居上飯田線【本宿・二俣川地区】（旭区）
 - ・川崎町田線【恩田地区】（青葉区）
 - ・横浜逗子線【釜利谷六浦地区】（金沢区）
 - ・東京丸子横浜線【綱島地区】（港北区）
 - ・山下長津田線【鴨居地区】（緑区）
 - ・桜木東戸塚線【平戸地区】（戸塚区）
- など30箇所

コラム③ 都市計画道路の整備を推進しています

市内の都市計画道路の整備率(69.1%)は、指定都市の中でも最低の水準にあり、慢性的な渋滞による時間損失や企業収益・生産性の低下、環境への影響など、社会的損失をもたらす要因となっています。

通学路などの安全性向上や緊急輸送路の確保、横浜港の国際競争力の強化、渋滞緩和などを図るため、市民生活や横浜経済を支える道路ネットワークの形成を進めていきます。

◆川崎町田線（恩田地区）の早期開通に向け工事を推進中

川崎町田線（恩田地区）は町田市境付近から田奈駅方面へのバイパス区間であり、国道246号方面へ接続する路線です。本地区の整備により、交通利便性が向上するとともに、安全な歩行空間を確保します。

令和6年度は、奈良川を横断する橋梁の上部工や街築工事を進め、早期開通を目指します。



奈良川を横断する橋梁工事

◆鴨居上飯田線及び保土ヶ谷二俣川線整備の推進

都市計画道路鴨居上飯田線のさちが丘から二俣川駅付近までの約1kmの区間が令和5年3月28日に開通したことで、二俣川駅周辺の生活道路に流入していた通過交通が減少し通学児童等の安全性が向上するなどの整備効果が、早くも発揮されています。

引き続き、二俣川駅付近から本宿方面の区間とこれに接続する保土ヶ谷二俣川線の整備を推進し、二俣川駅南口エリアから保土ヶ谷バイパス南本宿ICまでをつなげることで、道路ネットワークとしての整備効果を発揮できるよう、令和7年度の全線開通を目指し、全力で取り組んでいきます。

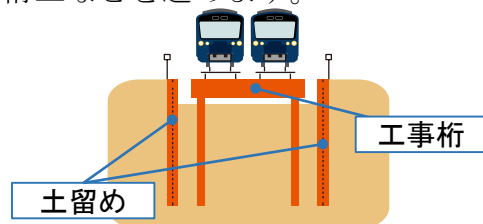


(2) 連続立体交差事業 32億1,000万円 (39億2,100万円)

周辺交通の円滑化やまちの活性化を図るため、相模鉄道本線（鶴ヶ峰駅付近）連続立体交差事業を推進します。

全工区において、用地取得や土留め工、掘削工、工事桁工などを進めます。

【事業区間：西谷駅～二俣川駅 約2.8km】
 【踏切除却数：10箇所（うち開かずの踏切9箇所）】



コラム④ 安全かつ円滑にシールドトンネル工事を進めるための体制

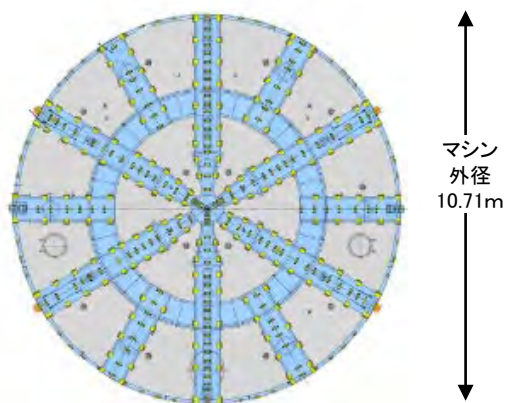
事業区間約2.8kmのうち約1.9kmがシールドトンネル構造となります。

シールドトンネル工事は、鉄道を運行しながら線路の真下を掘り進める難易度の高い工事となります。

有識者による委員会を設置し、施工計画やシールドマシンの性能について、現場状況や最新の技術的知見を踏まえ検討・検証を行うなど、工事の安全かつ円滑な進捗が図れる体制を整えています。



有識者による現場視察(発進立坑部)



シールドマシン(前面)のイメージ図

(3) 国道の整備 10億4,107万円 (16億7,907万円)

本市の道路ネットワークの骨格を担う国道の整備を進めます。

- ・国道1号【保土ヶ谷橋工区】(保土ヶ谷区) (工事、用地取得、設計など)
- ・国道1号【不動坂交差点】(戸塚区) (歩道橋工事など)
- ・国直轄事業【国道1号、15号、16号、246号、357号】(改築、電線共同溝事業など)

(4) 道路改良【一部再掲】 20億 521万円 (18億2,670万円)

市民生活やバス交通の利便性の向上を図るため、歩道設置や交差点改良によるボトルネックの解消等、市民生活に密着した道路改良事業を進めます。

- ・市道谷戸坂通 (中区)
- ・市道上大岡第149号線・第168号線 (南区)
- ・市道上白根第99号線 (旭区)
- ・市道下瀬谷第438号線 (瀬谷区) 令和6年度 完成予定
など62箇所

主 な 事 業 箇 所



歩道整備
市道谷戸坂通(中区山手町)



歩道整備
市道上大岡第149号線・第168号線(南区大岡五丁目)



歩道整備
市道上白根第99号線(旭区白根六丁目)



歩道整備・交差点改良
市道下瀬谷第438号線(瀬谷区宮沢三丁目)

(5) 深谷通信所跡地利用関連道路計画検討 1,500万円 (2,000万円)

深谷通信所跡地(平成26年6月返還)において、跡地利用基本計画を踏まえ、外周道路及び環状3号線・4号線との連絡道路について、関係部署と連携し、都市計画の手続き等に取り組んでいきます。

Ⅱ 市民生活の安全・安心の確保 ～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～

1 誰もが安全・安心に利用できる道路空間

(1) 子どもの通学路交通安全対策事業 5億2,705万円（3億円）

通学路における子どもの交通事故死ゼロに向けて、「こども・交通事故データマップ」の更新とともに、引き続き、教育委員会事務局と連携しながら、通学路の安全点検や授業の教材としてデータマップの活用を進め、交通安全対策に取り組みます。

また、交通事故データやETC2.0ビッグデータなどを活用して、潜在的な交通危険箇所を「見える化」し、効果的な交通安全対策を市内20地区で展開します。

このうち、交通安全推進校*として選定する5地区では、ハンプや狭さく、あんしんカラーベルトの整備や、放課後キッズクラブでの交通安全教室など、教育委員会事務局とも連携し、ハード・ソフトの交通安全対策を小学校通学区域全体で実施します。

さらに、令和5年度に対策した地区の効果検証を行い、必要に応じて対策の更新を行います。

*交通安全推進校…児童を対象とした交通安全教育、地域や保護者と連携した見守り活動などの交通安全対策を重点的に実施する小学校・義務教育学校

令和6年度は、大岡小学校（南区）、藤塚小学校（保土ヶ谷区）、八景小学校（金沢区）、藤が丘小学校（青葉区）、緑園学園（泉区）を選定しました。

(2) 交通安全施設の整備・補修 11億9,773万円（11億5,735万円）

区画線、あんしんカラーベルト、防護柵、案内標識、エレベーター等の整備・補修を行います。

また、地域の方々や小学校と連携し、通学路等における歩行空間の確保などの交通安全対策を実施します。

- ・市道箕輪第135号線（港北区）
- ・市道菅田第108号線（神奈川区） など 15箇所

整備前



整備後



【泉区】市道和泉町第322号線

(3) 交通安全教育・啓発事業 3,712万円 (3,494万円)

幼児を交通事故から守るため、道路の正しい横断方法等を指導する幼児交通安全教育訪問指導や、高齢者を対象とした交通安全教室の開催等、世代に応じた交通安全教育を行います。

また、関係機関・団体等と連携し、強化月間等に合わせた啓発を実施するとともに、歩行中の事故防止に効果的な反射材の配布・啓発を進めます。



幼児交通安全教育訪問指導

(4) 私道対策 8,740万円 (8,600万円)

私道の舗装工事等への助成や、市民要望による私道整備を進めます。

また、私道を公道に移管するための測量費等の助成を行います。



私道整備助成実施前(港北区)



私道整備助成実施後(港北区)

(5) 踏切の安全対策(歩行者対策) 5億2,160万円 (4億4,160万円)

歩行者の安全な通行に課題のある踏切について順次、踏切拡幅等の安全対策を進めます。

ア 踏切拡幅等

- ・金沢八景(逗)第二踏切
(金沢区:京浜急行逗子線)
- ・法隆寺踏切
(港北区:JR東日本横浜線)
- ・城山踏切
(港北区:JR東日本横浜線)



樹源寺跨線人道橋の施工状況
(令和5年度末供用開始予定)

イ 跨線人道橋の整備

- ・樹源寺踏切(保土ヶ谷区:JR東日本東海道線)
- ・生見尾踏切(鶴見区:JR東日本東海道線)

(6) 連続立体交差事業【再掲】 32億1,000万円 (39億2,100万円)

コラム⑤ 子どもの通学路交通安全対策事業

スクールゾーン対策協議会から要望されたハード対策や、「こども・交通事故データマップ」を活用したソフト対策を市内全体で行います。

加えて、データを活用した交通安全対策を市内20地区で実施することで、予防保全型の交通安全対策を実施します。

市内全体

■ハード対策

各小学校のスクールゾーン対策協議会では毎年、通学路の点検を実施し通学路の安全対策について土木事務所・区役所・警察と連携しながら検討しています。



スクールゾーン対策協議会



交差点カラー化

■ソフト対策



引用:Googleマップ

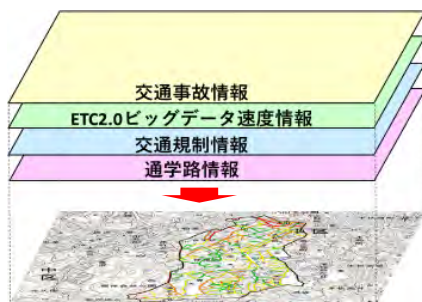
◀ こども・交通事故データマップ

「こども・交通事故データマップ」は、スクールゾーン対策協議会での通学路の安全点検時や、見守り(はたふり)活動など、学校や地域での交通安全活動で活用いただくものです。



令和5年12月時点で100万回以上閲覧いただいています。

データを活用した交通安全対策（20地区）



活用



減速ドットマーク



あんしんカラーベルト

交通安全推進校 5地区(校)

■ハード対策

速度抑制対策としての物理的デバイスの検討を行います。



ハンプ



狭さく



スムーズ横断歩道

■ソフト対策

幼児交通安全教育訪問指導、放課後キッズクラブでの交通安全教室などを実施します。



幼児交通安全教育訪問指導



データマップを活用した交通安全出前授業



放課後キッズクラブでの交通安全教室

2 防災・減災対策

(1) 地震対策（橋梁・歩道橋） 13億8,030万円 <16億1,030万円>（27億1,139万円）

ア 橋梁の地震対策 12億4,980万円（12億2,130万円）

緊急輸送路等にある「重要橋梁」のうち、熊本地震で被害が生じた構造と同形式の橋梁を含む、対策が必要な375橋について、倒壊や甚大な被害を防止する地震対策を優先的に進め、これまで369橋の対策が完了しています。残り6橋の対策が残っており、引き続き地震対策を進めています。

また、緊急輸送路等以外の道路にある「一般橋梁」についても、老朽化対策と合わせて地震対策を進めています。

- ・ 矢向第一陸橋（鶴見区）
- ・ 新子安橋（神奈川区）
- ・ 新横浜陸橋（港北区）

など8橋



耐震補強工事：新横浜陸橋（港北区）

イ 歩道橋の地震対策 1,000万円 <3,000万円>（2億5,959万円）

横浜市地震防災戦略に基づき、平成24年度から緊急輸送路第一次路線上にある歩道橋136橋の地震対策を進めています。

令和6年度は、青葉台駅前第一歩道橋の耐震対策を進め、全ての歩道橋について対策を完了させます。

- ・ 落橋防止装置の設置
青葉台駅前第一歩道橋（青葉区）



峰沢町歩道橋（保土ヶ谷区）：横変位装置
令和5年7月完成



錦町第三歩道橋（中区）：落橋防止装置
令和5年7月完成

ウ 鶴見川中下流域の橋梁新設 1億2,050万円 <3億3,050万円> (12億3,050万円)

河川の氾濫や大規模地震時の火災発生など、広域的な避難が必要となった場合に、有効な避難経路となる「鶴見川人道橋」について、令和7年春の完成を目指し、引き続き整備を進めます。

また、港北区の新羽橋から新横浜大橋の間についても、引き続き橋梁新設に向けた検討を進めます。



橋梁新設工事:鶴見川人道橋(鶴見区)完成イメージ

コラム⑥ 鶴見川人道橋 早期完成を目指して施工中!

鶴見川人道橋は、橋長が約114mの鋼製橋梁です。「防災機能の向上」の他、「生活利便性の向上」や「親水空間としての魅力向上」を図るため、令和3年度から工事に着手しています。河川を阻害をしないよう施工時期を調整しながら、橋台2基、橋脚1基を既に完成させ、残り橋脚1基の施工を鋭意進めています。

人道橋の早期完成を図るため、河川工事と並行して桁部の工場製作も進めており、令和7年春の完成を予定しています。



河川工事状況(橋脚を施工中)



桁部製作状況

(2) 道路がけ防災対策事業 2億2,480万円 (1億2,480万円)

道路を利用する市民の安全と交通機能確保のため、道路がけの点検や対策工事を実施します。

(3) 道路がけ緊急防災対策事業 2億円 (一)

道路がけ防災対策事業に加えて、令和6年度から新たに緊急輸送路やバス路線などの道路がけについて、4年間で集中的に対策を行います。



対策前



対策後

令和4年度の対策実施箇所(南区別所四丁目)

(4) 無電柱化推進事業 12億2,678万円 < 13億9,378万円 > (11億3,030万円)

災害時の救急活動や応急復旧を速やかに展開できるように、環状2号線など無電柱化路線の環状形成に資する路線や、災害時に拠点として機能する区役所等へのアクセス路について、無電柱化を重点的に推進します。また、良好な都市景観形成や観光振興のため、主要な観光地周辺の無電柱化を検討していきます。

コスト縮減・事業費平準化等のための試行として、PFI手法による電線共同溝の整備を環状3号線(杉田港南台地区 約3km区間)において実施しており、令和6年度は本体工事に着手します。

無電柱化の状況
(港南区役所)



整備前



整備後

ア 緊急輸送路

- ・環状2号線(鶴見区、神奈川区、港南区、磯子区、港北区)
- ・山下本牧磯子線(中区)
- ・環状3号線(港南区、旭区、磯子区、栄区) など8路線

イ 区役所等へのアクセス路

- ・鶴見区、中区、南区、保土ヶ谷区、金沢区、緑区、青葉区、戸塚区、栄区、泉区

コラム⑦ 市民ニーズを捉えた災害対策への取組

「令和5年度横浜市民意識調査」では、地震や台風などの災害対策に関する要望が一番多く、道路局では、震災時の緊急輸送路の確保に向けた都市計画道路の整備や橋梁・歩道橋等の地震対策、頻発化する大雨に対応する河川整備に取り組んでいます。

また市民ニーズの高い、駅周辺のバリアフリー化対策、救助・救急活動の妨げになる「開かずの踏切」対策、高速道路ネットワークの充実による幹線道路の渋滞対策など市民生活の利便性・安全性向上に取り組んでいます。

順位	要望が高い上位5項目(複数回答)	
1	地震や台風などの災害対策	30.2% (1)
2	防犯対策	29.8% (4)
3	病院や救急医療など医療提供体制の充実	29.0% (3)
4	高齢者福祉	28.8% (2)
5	通勤・通学・買い物道路や歩道の整備	27.5% (5)

※カッコ内の数字は令和4年度調査結果の順位
令和5年度横浜市民意識調査結果速報(概要)抜粋

コラム⑧ 大規模地震時の道路啓開^{けいかい}について

大規模地震等が発生した際、道路局は、人命救助や物資の輸送に必要な緊急輸送路の道路啓開を最優先に実施します。発災後、市管理の緊急輸送路(約400km)を各区土木事務所と横浜建設業協会が協力して緊急巡回等を行い、人命救助において極めて重要とされる72時間以内を目標に実施します。

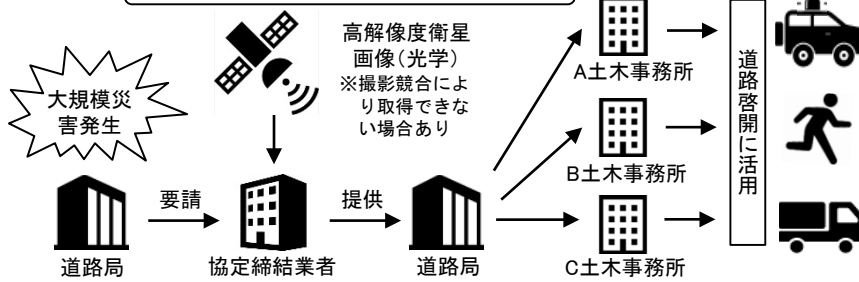


道路啓開のタイムライン

コラム⑨ 大規模災害時の道路啓開における高解像度衛星画像の活用

大規模地震等発生時、道路啓開に必要な情報収集のため、緊急輸送路を緊急巡回しますが、道路損壊や車両滞留により大幅に時間を要することも予想されます。このような状況下において、協定締結業者から高解像度衛星画像を取得し、市内の道路被害状況を広域的に把握することで、道路啓開や応急対策に活用していきます。

高解像度衛星画像活用のイメージ



高解像度衛星画像のイメージ



コラム⑩ 災害への備え～震災対策訓練と防災協定～

備え：その1 (震災対策訓練)

大地震発生時における緊急輸送路の点検、被害情報の収集、情報受伝達、道路啓開方針の策定等を迅速・的確に実施することを目的として、(一社)横浜建設業協会をはじめとする関係する皆様と連携した道路局震災対策訓練を実施しています。また、横浜市総合防災訓練など、さまざまな訓練を通じて関係機関との連携を深めるとともに、職員の災害対応能力の向上を図り、災害に備えています。

【道路局震災対策訓練】



《道路局震災対策訓練》



《道路啓開合同訓練(段差の解消訓練)》
横浜建設業協会(旭区会)・旭土木事務所



《関係団体による被害状況緊急調査の訓練》
(神奈川県測量設計業協会横浜支部)
(横浜市地質調査業協会)
(横浜市建設コンサルタント協会)

【関係機関との訓練】



《横浜市総合防災訓練》
横浜建設業協会(港北区会)・港北土木事務所



《非常時を想定した備蓄燃料の給油訓練》
青葉消防署・都筑土木事務所



《道路啓開初動対応合同訓練》
横浜国道事務所・京浜河川事務所・神奈川県

備え：その2 (防災協定)

災害に備え、次の団体と防災協定を締結し、災害対応力の強化に取り組んでいます。

- ・(一社)横浜建設業協会
- ・(一社)神奈川県測量設計業協会横浜支部
- ・(一社)横浜市建設コンサルタント協会
- ・(一社)日本建設機械レンタル協会神奈川支部
- ・(一社)神奈川県建設業協会横浜支部
- ・(一社)横浜市地質調査業協会
- ・神奈川県レンタル業協会
- ・(一社)神奈川県バス協会

(5) 河川整備 20億4,258万円 <31億4,958万円> (31億6,958万円)

治水安全度の向上を図るため、「流域治水」の基盤となる河川改修や流域貯留施設の整備について、浸水被害が発生している河川において重点的に推進します。

ア 大規模特定河川事業 6億2,100万円 (6億6,000万円)

- ・今井川 護岸改修、保土ヶ谷橋橋梁設計 (保土ヶ谷区岩井町)
- ・帷子川 護岸改修、暫定貯留部整備、橋梁新設 (旭区川井本町)

イ 都市基盤河川改修事業 9億4,582万円 <19億6,282万円> (22億2,258万円)

- ・今井川 護岸改修、用地補償 (保土ヶ谷区権太坂一丁目)
- ・帷子川 護岸改修、進入路整備 等 (旭区上川井町、白根一丁目)
- ・阿久和川 護岸改修、用地補償 (瀬谷区阿久和南二丁目)
- ・和泉川 管理用通路整備、台帳整備 (泉区和泉町) など10河川

ウ 準用河川改修事業 4億5,076万円 <5億3,176万円> (2億7,400万円)

- ・日野川 護岸改修、用地補償 (港南区日野七丁目) など3河川

エ 流域貯留浸透事業 500万円 <1,400万円> (1,300万円)

- ・既設雨水調整池容量拡大 (泉区新橋町 宮古A雨水調整池)

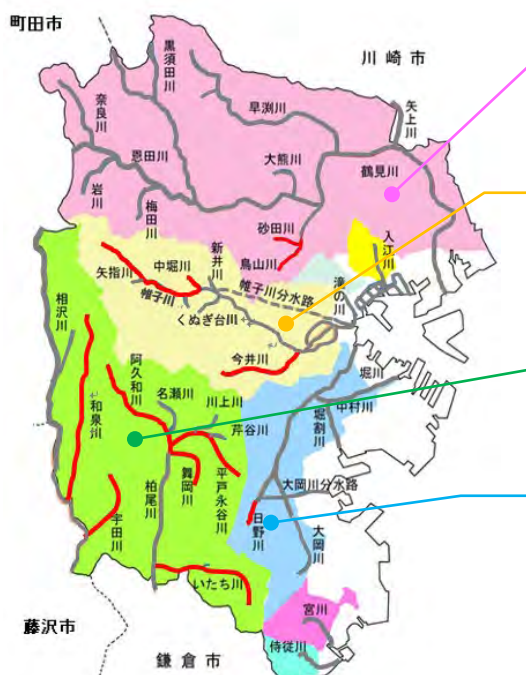
オ 河川環境施設調査検討費 2,000万円 (-)

- ・河川環境施設の再整備に向けた基本構想策定 (詳細はコラム⑮を参照)

コラム⑪ 時間降雨量約60mm対応の河川を順次拡大！～高まる自然災害リスクに対し新たなステージへ～

近年、気候変動の影響による豪雨災害等が激甚化・頻発化し、日本各地に甚大な被害をもたらしています。国、県と連携して作成した「流域治水プロジェクト」※1なども踏まえて、帷子川について、**降雨確率1/10(時間降雨量約60mm)**に対応した河川改修工事(河床掘削)を中堀川合流点付近から開始します。また、中堀川、今井川についても県と協議を開始しており、工事着手に向けて協議を進めていきます。

<主な流域の対応状況(本市事業河川)>



【鶴見川水系】
砂田川、鳥山川は、時間降雨量約60mmの工事着手に向け詳細な検討を開始することについて、国との協議が整いました。

【帷子川水系】
帷子川は、令和4年度に県との協議が整ったため、時間降雨量約60mm整備に向けて工事着手しました。また、中堀川の改修や今井川の再整備についても県と協議を開始しており、引き続き、工事着手に向けて協議を進めていきます。

【境川水系】
平戸永谷川、宇田川、舞岡川など、時間降雨量約60mm整備に向けて、県と協議を進めていきます。

【大岡川水系】
令和元年9月に浸水被害が発生した準用河川日野川については、引き続き浸水被害箇所の河川改修(時間降雨量50mm)を進めています。

※1 流域治水とは：
風水害の激甚化・頻発化等を踏まえ、河川整備等の対策をより一層加速するとともに、集水域から氾濫域にわたる流域に関わる国、都道府県・市町村、企業、住民等のあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。

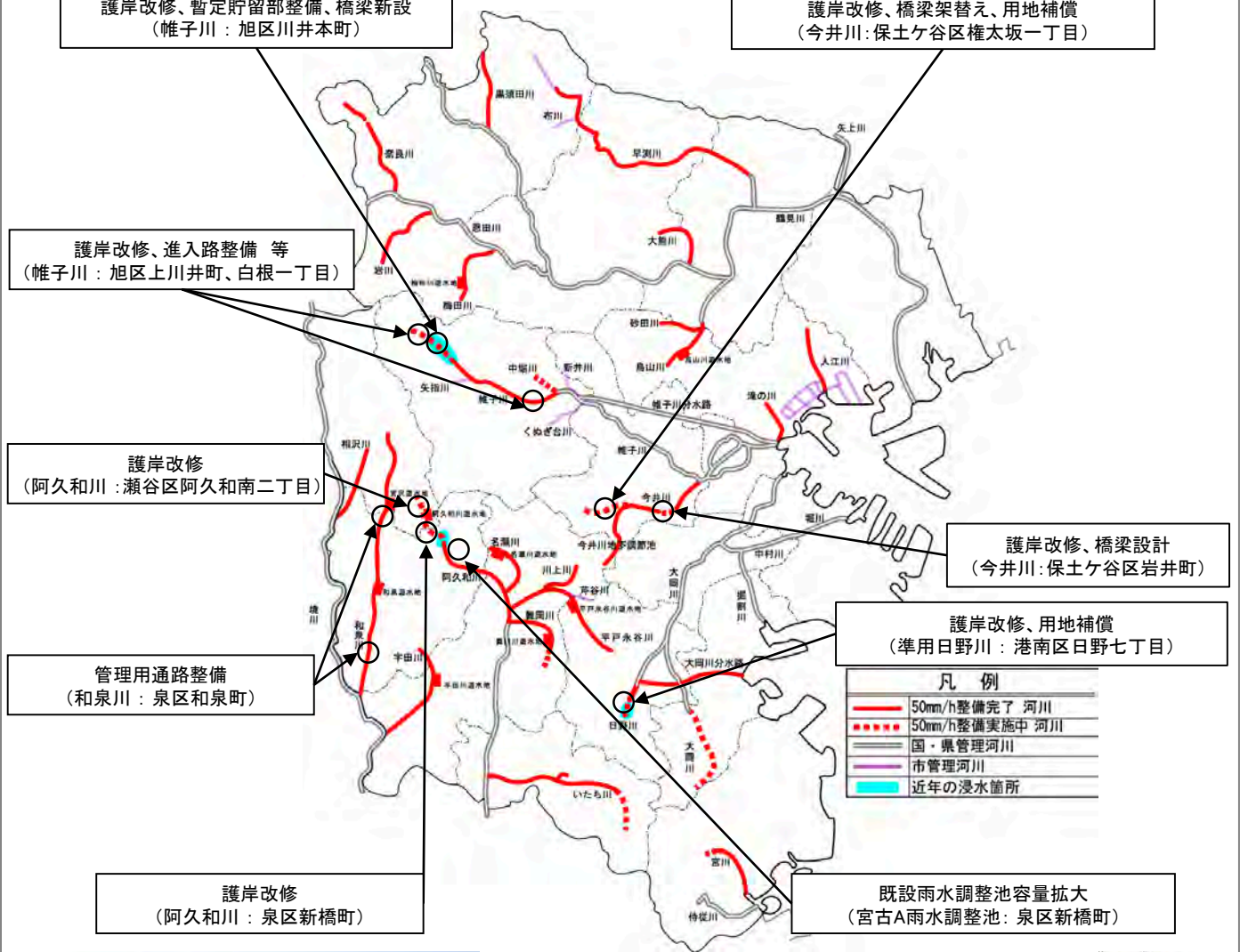
河川整備の主な事業箇所



護岸改修、暫定貯留部整備、橋梁新設
(帷子川：旭区川井本町)



護岸改修、橋梁架替え、用地補償
(今井川：保土ヶ谷区権太坂一丁目)



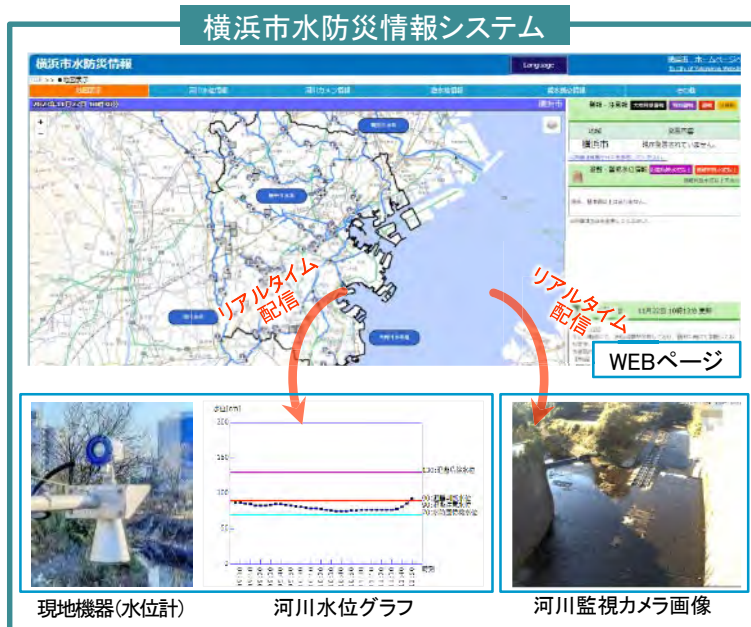
(6) 水防事業 7,952万円 (7,952万円)

風水害や水難事故から市民の安全を自助・共助により守るため、気象情報や河川の水位情報の発信等を行います。

ア 水防災情報システム

河川の水位データや河川カメラ画像をリアルタイムに提供するため、33箇所の水位計と26箇所の監視カメラの保守管理等を行います。

また、自然排水型遊水地の水位計等を更新します。



イ 親水拠点警報装置

20箇所の親水拠点警報装置の保守管理を引き続き実施します。

ウ 水防資機材

水防活動時に使用する資機材を備蓄するとともに、水害時等に自由に土のうを活用していただける土のうステーションの設置を進めます。



土のうステーション設置例

エ 水防広報

河川の特徴や危険性、天気との関係性を学んでもらうため、市内の小学1年生等に水難事故防止啓発チラシを配布します。



親水拠点警報装置



水難事故防止啓発チラシ

コラム⑫ 水難事故防止のための普及啓発活動（出前講座・イベント出展）

道路局では、洪水時における河川の危険性についての周知活動を積極的に実施しています。

小学校低学年の児童を中心に、紙芝居や映像を使用し、河川の危険性や特徴、環境の知識まで学べる出前講座を行っています。

また、大型商業施設のイベントにて、小学生向けワークショップや水防災啓発の動画放映・パネル展示等を行いました。河川広報及び防災意識向上に取り組む様々な普及啓発活動を行っています。



出前講座の様子



大型商業施設でのイベントの様子



コラム⑬ 「横浜市水防災情報のページ」はさらに便利に進化しています！

本市河川の水位やカメラ情報を公開している「横浜市水防災情報」のWEBページは、これまで様々な改修を重ねてきましたが、令和5年6月には、1か月で28万件以上の閲覧者数を記録し、過去最多となりました。

また、市内で神奈川県が所管している水位計や河川カメラの連携について協議を実施し、令和6年度には河川カメラ7か所と水位計5か所が追加され、合計76か所のカメラと86か所の水位情報が閲覧できます。

今後も更に多くの皆様に使いやすい防災ツールとなるよう、引き続き改修を実施していきます。

図) 令和6年度新規追加地点 位置図

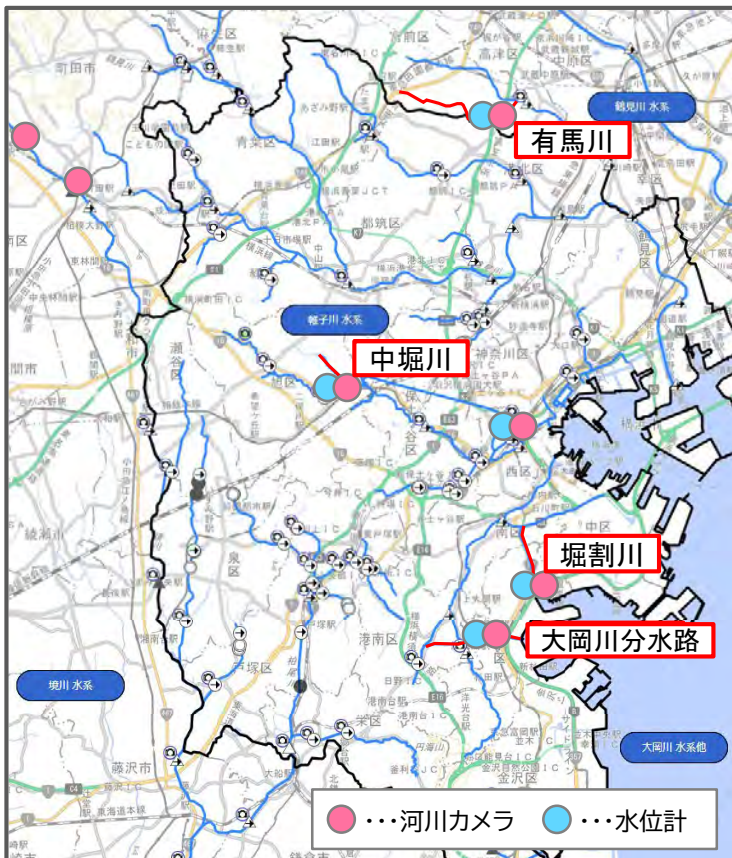


表) 令和6年度改修実施後の掲載数

	河川カメラ		水位計	
	R6	7	R6	5
計	76か所掲載		86か所掲載	



新たに4河川（中堀川、堀割川、大岡川分水路、有馬川）の河川情報が追加され、計40河川が閲覧可能となります。



「横浜市水防災情報」はこちらから



3 計画的な保全・更新・維持管理

(1) 施設の老朽化対策【一部再掲】 **63億9,148万円** <69億9,448万円> (64億5,549万円)
 「公共施設等総合管理計画」に基づき、各施設の長寿命化を図る保全計画等を策定し、メンテナンスサイクルにより効率的かつ効果的な維持管理・更新等を進めます。

ア 橋梁の老朽化対策【一部再掲】 **51億5,631万円** <53億5,631万円> (52億1,921万円)
 橋梁の適切な維持管理を行うため、5年に1度の定期点検を引き続き進めます。

点検結果を踏まえ毎年更新する、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、優先度の高い橋梁の補修や架け替えなどを実施します。



計画的な補修: 第1柳明橋(泉区)

(ア) 定期点検 394橋

(イ) 計画的な補修等

- ・ 鶴見大橋 (鶴見区)
- ・ 第1柳明橋 (泉区)
- ・ 第2阿久和三家橋 (瀬谷区)

など98橋

(ウ) 老朽橋の架け替え 末吉橋 (鶴見区)

鶴見川に架かる末吉橋は、仮橋への交通切替後、令和5年度に既設橋の撤去を終え、新設橋の構築工事に着手しました。

6年度は、引き続き河川内にて橋脚部の躯体工事を進めています。



老朽橋架け替え: 末吉橋(鶴見区)

イ トンネル等の補修 **4億1,709万円** (3億7,829万円)

橋梁と同様、5年に1度の定期点検を実施しています。

トンネルについては、早期の処置が必要な補修の目処が概ねついたため、予防保全型の維持管理をおこなっています。

(ア) 定期点検 39箇所

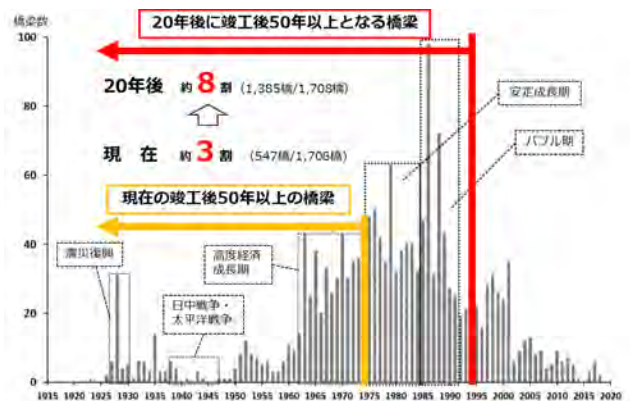
(イ) 計画的な補修 相武隧道 (金沢区) など13箇所

コラム⑭

橋梁維持管理の「事後保全」から「予防保全」への転換に向けて

本市は1,700橋を越える橋梁を管理しています。20年後はこのうち約8割がしゅん工後50年以上となり、適切な修繕を行わなければ事故や通行止めのリスクが増大します。

現状の事後保全型管理から、予防保全型管理への転換を目指し、コスト縮減を図りながら効率的な維持管理を進めていく必要があります。



ウ 歩道橋の老朽化対策 5億3,858万円 <9億4,158万円> (6億2,099万円)

本市が管理する歩道橋326橋の適切な維持管理を行うため、5年に1度の定期点検を引き続き進めます。点検結果を踏まえ毎年更新する、道路付属物(歩道橋)長寿命化修繕計画に基づき、優先度の高い歩道橋の補修などを実施します。

(ア) 定期点検 82橋



劣化状況の近接目視
すずかけ通り歩道橋(西区)



手すりの点検と応急処置
ふじ歩道橋(保土ヶ谷区)

(イ) 計画的な修繕 入船小学校歩道橋(鶴見区)など22橋



計画的な修繕の例(令和6年1月完成 神奈川区 東神奈川駅前第2歩道橋)

エ 河川施設等の老朽化対策 2億7,950万円 (2億3,700万円)

(ア) 定期点検・調査 河川点検(38河川)

(イ) 計画的な補修 大岡川ほか6河川の補修等
ポンプ排水型遊水地設備の補修(宇田川遊水地)

コラム⑮ 河川環境施設の再整備に向けた基本構想策定

(全国に先駆け実施してきた河川環境施設の老朽化が進行 基本構想の策定に着手)

本市では生態系に配慮し水辺に親しめる水辺空間の創出を目指して、全国に先駆けて自然に配慮した川づくりを進め、河川環境の再生・保全に努めてきました。また、水辺に親しめるよう、旧河川敷や遊水地を利用した水辺空間の整備を行いました。

整備から30年以上が経過し、老朽化が進展してきたことを踏まえ、再整備に向けた基本構想の策定に取り組みます。基本構想の策定にあたっては、安全基準やバリアフリーを考慮し、持続可能な維持管理、周辺の自然環境・景観との調和など様々な観点から検討を行います。

●まほろばの川づくりモデル事業[阿久和川]



<完成時>



<現況>

老朽箇所(木製デッキ)

(2) 道路修繕 99億9,923万円 <109億9,923万円> (108億9,007万円)

舗装のひび割れやわだち掘れ等、損傷が著しくなってきた道路の計画的な修繕や緊急を要する舗装補修を進めます。

年度末における道路の損傷や、災害等に対応するとともに、働き方改革で求められている発注・施工時期の平準化を進めるため、道路修繕工事等について債務負担行為を設定します。



舗装修繕工事の状況(旭区)

コラム⑩ 建設業の働き方改革への対応

◆公共工事の平準化

令和6年4月から建設業にも「時間外労働の上限規制」が導入されるため、発注者の責務として、「平準化」等の取組促進が求められています。

公共工事については、年度初めの4、5月に工事量が少なく、年度の後半にかけて工事量が多くなる傾向にあり、特に、繁忙期である1～3月に仕事量が增大し、受注者の長時間労働などにつながっています。

このため、年度末の繁忙期を解消し、官民あげた業務改善にもつながる「施工時期の平準化」に取り組んでいます(図1)。

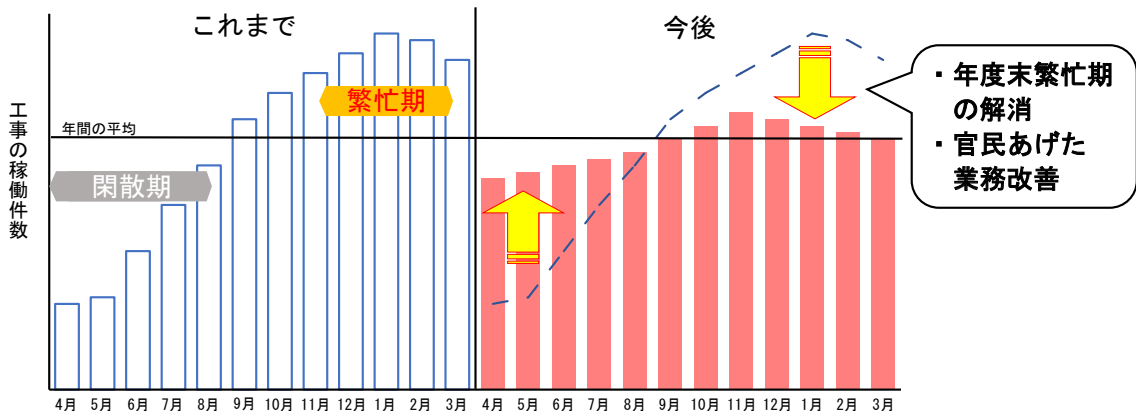


図1 公共工事の稼働件数の年度内推移(イメージ)

◆「平準化工事※」の始動

これまで「早期執行」や「計画的な発注」など、発注時期の前倒しによる平準化に取り組んできましたが、6年度はこれらに加え、昨年度に導入した「平準化工事」が本格的に始動します。

これにより、4、5月の閑散期における工事量が更に増加し、年間を通じて工事量が均等になることが見込まれます(図2)。

※平準化工事は、「工期1年未満の工事」に関して施工時期の平準化を目的とした債務負担行為を設定したものです。

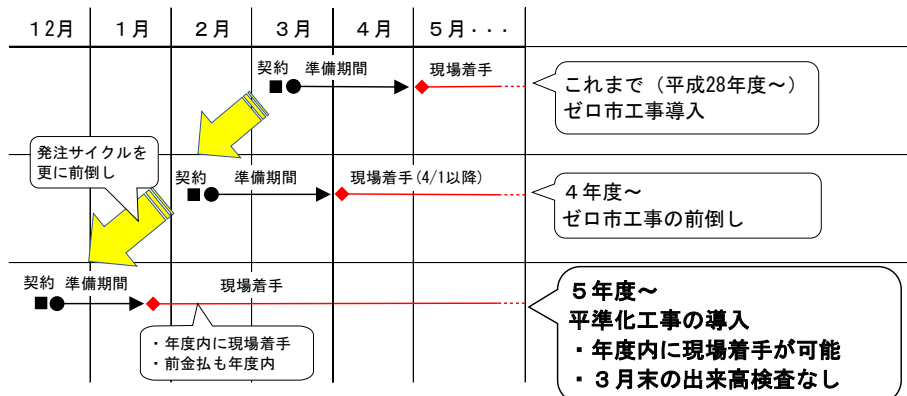


図2 ゼロ市工事と平準化工事の比較

※道路局の債務負担行為については、43ページをご覧ください。

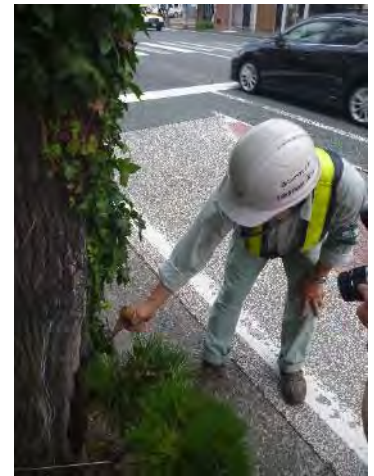
(3) 街路樹・植樹帯の管理 18億710万円 (17億5,710万円)
樹木の大径化、老朽化に対応した街路樹の管理を行います。

ア 剪定・刈込等 16億2,621万円 (15億7,621万円)
街路樹及び植樹帯について、剪定や刈込等を行います。また、個々の街路樹の調査を行い、データベースを構築し、維持管理のDXを進めます。

イ 倒木対策 1億2,088万円 (1億2,088万円)
キノコが寄生し、腐朽しやすい8種の街路樹や緊急輸送路第一次路線上の街路樹について樹木医による点検を行います。

ウ 街路樹の更新等 6,000万円 (6,000万円)
老朽化した街路樹の更新や安全のために伐採した後の補植に際して、成長が穏やかで、倒木の危険性が低い樹種への変更や適切な間隔での再配置などを進めます。

- ・大岡川プロムナード (南区、中区) ・環状4号線 (緑区)
- ・石崎川プロムナード (西区) ・柏尾川プロムナード (戸塚区) ほか2箇所



樹木医による点検実施状況



街路樹の更新の例: 港南桜道 (港南区)
サクラの品種をソメイヨシノからヨウコウに変更

コラム⑰ 街路樹による良好な景観づくり
道路局予算に加えて、環境創造局のみどり保全創造事業費会計予算 (街路樹による良好な景観づくり: 4億6,000万円) を活用し、駅周辺や各区の主要な路線など、多くの市民の目にふれ、街並みの美観向上に寄与する街路樹に対し、街路樹剪定土指導の下、適切な生育と樹形を美しく保つために、細やかな剪定を行っています。

また、地域で愛されている桜並木等の再生を行っています。



良好に維持管理された街路樹

(4) 道路施設の管理 36億781万円 (35億3,286万円)

車道等の清掃及び道路照明灯やエレベーター等の保守・管理を行います。

ア 道路等の清掃 9億6,020万円 (9億450万円)

道路を常に良好な状態に保つため、幹線道路、駅前広場等の施設について、清掃を実施します。

- ・車道清掃延長 676km
- ・駅前広場 36駅ほか



車道の清掃

イ 道路照明灯の管理 3億2,340万円 (3億8,450万円)

道路照明施設の点検や補修を行うとともに、道路照明灯のLED化を令和6年度末に完了させます。

ウ 路面下空洞調査 3,000万円 (3,000万円)

道路陥没など突発的な道路の事故や被害を事前に防止するため、空洞探査車等を用いた路面下の空洞調査を実施します。

- ・緊急輸送路及び幹線道路 計約130km



空洞探査車による調査

エ その他 22億9,422万円 (22億1,386万円)

- ・エレベーター (108基)、動く歩道などエスカレーター (59基) の維持管理
- ・みなとみらい、港北ニュータウン共同溝の維持管理
- ・道路台帳の管理、更新、境界標の保全、認定路線の管理 など

(5) 市営自動車駐車場の管理運営 2億5,943万円 (3億5,080万円)

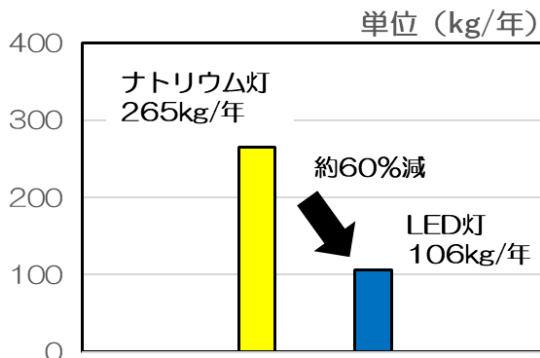
【自動車駐車場事業費会計】

都心部における路上駐車対策として設置している地下駐車場について、民間のノウハウを活用しながら、サービス向上と経費の削減を図るため、令和2年度から指定管理者による管理運営を行っています。

- ・福富町西公園地下駐車場
- ・ポートサイド地下駐車場
- ・馬車道地下駐車場
- ・山下町地下駐車場
- ・日本大通り地下駐車場
- ・伊勢佐木長者町地下駐車場

コラム⑱ 道路照明灯のLED化により、脱炭素化を推進します

道路照明LED化はCO₂削減効果も大



- ・道路照明灯約61,000灯のうち、令和5年度末までに約57,000灯のLED化を進めており、6年度末までに道路照明灯のLED化が完了する予定です。
- ・LED化が完了すると、二酸化炭素の排出量を年間約9,200 t削減できる見込みです。

道路照明灯のLED化によるCO₂削減効果
(ナトリウム灯1灯あたりの年間排出CO₂量)

(6) 河川水路等施設の管理【一部再掲】 13億4,942万円（13億586万円）

ア 河道浚渫等による治水安全度の確保 4億3,100万円（4億3,100万円）

河道等安全確保緊急対策事業等により、河川・雨水調整池等の堆積土砂の掘削や除草、樹木伐採等を実施し、治水安全度を確保します。

- ・堆積土砂の掘削
- ・樹木伐採、除草

イ 河川水路の維持管理 9億1,842万円（8億7,486万円）

本市管理の一級・二級・準用河川及び水路、雨水調整池などの維持管理を行います。また、システム等を活用し、占用物件・用地の管理を適正かつ効率的に行います。

- ・河川・水路等維持管理事業の業務効率化（詳細はコラム⑳、㉔を参照）
- ・河川等の土砂堆積量の把握と分析（詳細はコラム⑳を参照）
- ・護岸、管理用通路、転落防止柵等の補修
- ・ポンプ設備等の点検、補修、部品交換
- ・河川、水路の占用許可、河川・水路占用システム保守・管理
- ・河川、水路の現況調査、河川水路データベースシステム保守・管理
- ・水質事故処理、沈船撤去 など

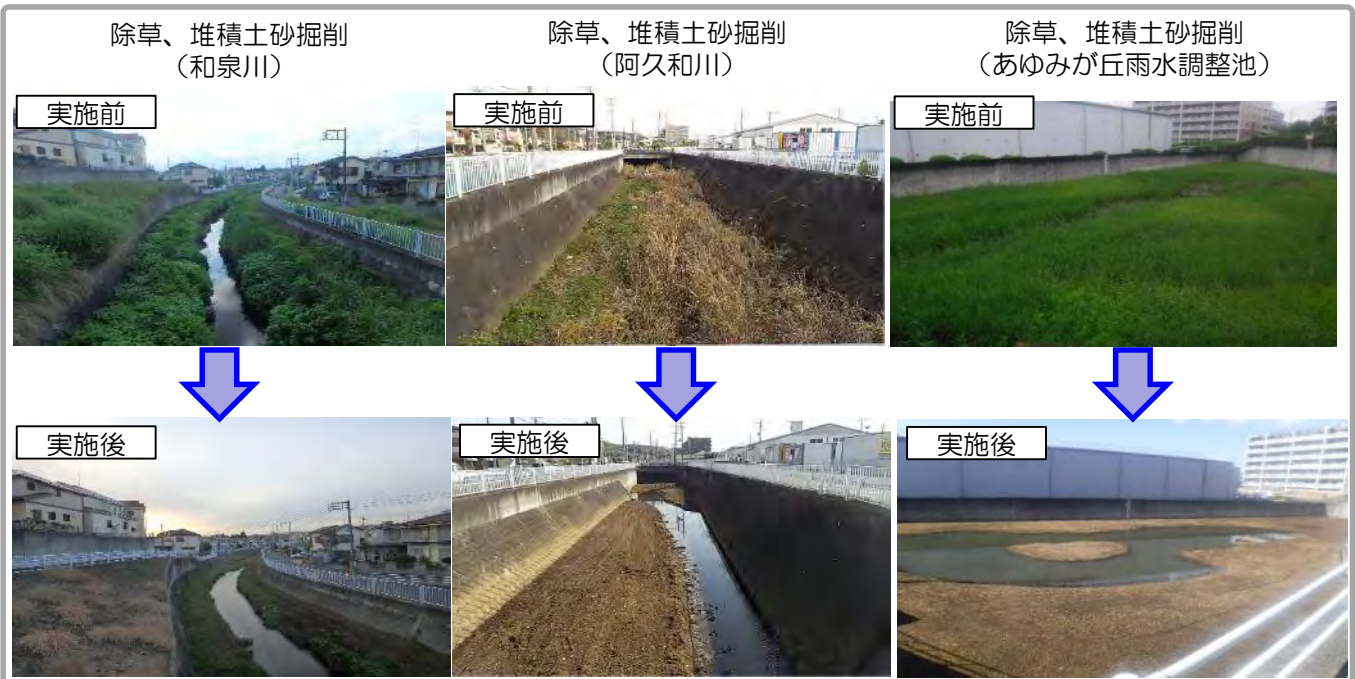
コラム⑱ 河道等安全確保緊急対策事業による対策強化！

～河川・水路・雨水調整池等の治水安全度の確保～

河川や水路、雨水調整池の土砂や草木は、日常的な点検の支障になるだけでなく、大雨時に水の流れを妨げるなどして、氾濫を引き起こす原因にもなります。また、土砂の堆積により水の流れが偏ることで、護岸崩落につながる洗掘が発生することも懸念されます。

河道等安全確保緊急対策事業等により、河川や水路、雨水調整池などの土砂掘削や樹木伐採、除草等の対策を強化することで、雨水を流す機能や貯める機能を確保していきます。

実施事例



令和7年度までに要対策河道延長約14kmの完了を目指します。



コラム⑳ 河川等の土砂堆積量の把握と分析 ～デジタル技術の活用～

デジタル・デザイン室が運営する、デジタルを活用した創発・共創のプラットフォーム「YOKOHAMA Hack!」を活用し、民間提案による河川の堆積土砂量を計測する技術を募集し、実証実験を行う企業2者と実証実験を実施（令和5年4月～8月）し、両社とも実務に適用できる精度を得ることに成功しました。この実証実験結果を踏まえ、令和6年度は、土砂堆積量の把握と分析システムの構築を行います。



洪水の一因

■雨が降ると土砂等が流れ込み、河川に堆積することで川の流れを阻害

維持管理で抱える
様々な課題

膨大な労力

■土砂堆積状況の把握手法が、職員による現地での目視点検であり膨大な労力が必要

評価のバラつき

■職員のスキル・経験によって評価結果に個人差が発生

計画策定 **難**

■堆積状況の傾向や、経年変化を追えていないため、先を見越した計画が立てづらい

デジタル技術の活用

【イメージ図】

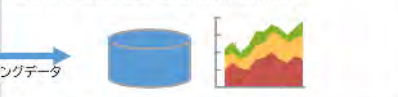
①航空写真解析による堆積範囲の把握



②航空写真解析・衛星測位システムによる堆積量の把握



③システム化による堆積傾向の把握



☑デジタル技術等を活用し、職員の点検業務が省力化。

☑定量的・定性的に堆積土砂量の把握が可能となり発注精度が向上。

☑土砂堆積撤去計画の策定により、予防保全型の維持管理を推進。



コラム㉑ 雨水調整池を活用したオフサイトPPA事業により、脱炭素化を推進します

雨水調整池を活用したオフサイトPPA事業は、横浜市が所管する雨水調整池に事業者が太陽光発電設備を設置し、発電した電力を脱炭素先行地域（みなとみらい21地区）へ供給する取組です。

令和5年4月に事業提案の募集を開始し、現在は、5年8月末に選定した事業者5社と事業実施検討の協議を進めています。

令和6年度は、事業者と雨水調整池への太陽光発電設備の設置を目指します。



事業スキーム図

※ オフサイトPPA

再エネ電源の所有者である事業者と需要家が、事前に合意した価格及び期間における再エネ電力の売買契約を締結し、需要地ではないオフサイトに導入された再エネ電源で発電された再エネ電力を、一般の電力系統を介して当該電力の購入者へ供給する契約方式。

Ⅲ 魅力あるまち・みちづくり

～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～

1 自転車施策の推進

自転車施策の推進 23億7,467万円（23億9,558万円）

「横浜市自転車活用推進計画」の4つのテーマである「まもる」「はしる」「とめる」「いかす」に基づき、自転車利用のルールやマナーの周知、自転車通行空間の整備、駐輪環境の向上及び放置防止対策、自転車の活用に向けた取組などの施策を総合的に進めます。

(1) 横浜市広域シェアサイクル事業社会実験 600万円（850万円）

OpenStreet株式会社（他連携事業者4社）及び株式会社ドコモ・バイクシェアと協定を締結し、社会実験（令和6年度末まで）を実施しています。6年度は交通管理者・公園管理者と連携し、歩道上や公園区域内などでのサイクルポートの設置を積極的に進め、更なる利便性を向上させるとともに、区と連携した広報を行い、利用促進を図ります。

また、5年度の実験結果の事業評価を行い、7年度からの本格実施に向けた検討を進めるとともに、6年度から横浜都心部コミュニティサイクル事業（baybike）を都市整備局から移管し、シェアサイクル事業を一元的に推進します。



【社会実験で新たに設置したシェアサイクルポート】（5年10月30日時点）
ポート数：197箇所、ラック数：1,470台

(2) 自転車通行空間の整備 7,100万円（1億600万円）

港北ニュータウン周辺、戸塚駅周辺、都心臨海部などの重点エリア4地区と、環状4号線など2路線において整備を進めます。

(3) 市営自転車駐車場の管理運営等 19億191万円（18億8,474万円）

鉄道駅周辺の市営自転車駐車場（240箇所）の管理運営、整備・補修を行うとともに、引き続き効率的な管理運営に向けて検討を進めます。

(4) 自転車等放置防止対策 3億8,389万円（3億8,314万円）

市内117駅周辺で、放置自転車等の移動や啓発活動等を実施します。

(5) 自転車の交通ルール等の周知・啓発 1,187万円（1,319万円）

自転車交通安全教室を実施するとともに、ヘルメット着用や自転車保険加入をはじめとした自転車の交通ルールの周知・啓発を行います。



自転車ネットワーク
計画図



みんなのサイクリルール
ブック

2 駅周辺の移動環境の確保

(1) 歩行空間の改善・拡充（バリアフリーの推進）【一部再掲】

5億6,127万円（1億6,563万円）

バリアフリー法に基づき、駅や区役所等の高齢者、障害者等がよく利用する施設間を結ぶ経路の一体的なバリアフリー化を図るため、三ツ境駅北口のエレベーター工事に着手するなど、バリアフリー歩行空間の整備に向けた計画の策定及び整備を進めるとともに、「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」の実現に向けて、子育てにやさしいみちづくりを進めます。

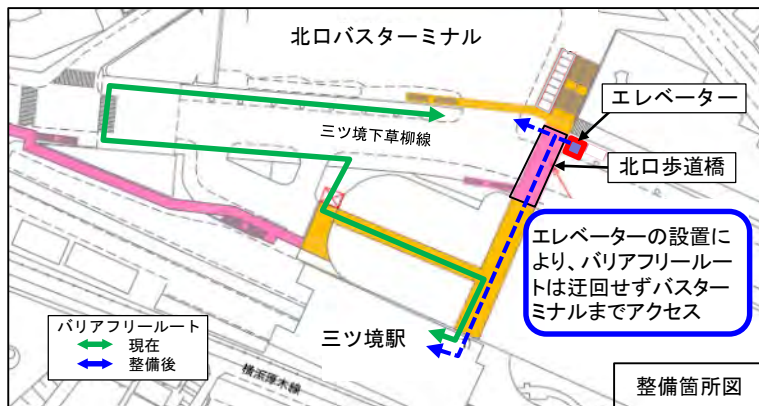
- ・十日市場駅周辺地区、都筑区タウンセンター周辺地区、三ツ境駅周辺地区、根岸駅・磯子駅・屏風浦駅・杉田駅・新杉田駅周辺地区、羽沢横浜国大駅周辺地区、踊場駅周辺地区 など11地区

また、金沢シーサイドラインにおいて改札口が高架にある並木北駅・幸浦駅へのバリアフリー化を図るため、令和6年度から並木北駅でエレベーター設置工事を進めるとともに、幸浦駅へのエレベーター設置に向けて設計を進めます。

(2) 駅周辺の魅力と利便性の向上【一部再掲】 1,500万円（9,000万円）

戸塚駅周辺の混雑緩和と利便性向上のため、西口では第二バスセンターの改良を受けて駅前線（戸塚第519号線）の駐停車禁止の交通規制を行います。東口では駅前広場内の乗降場所のレイアウト変更を推進します。

コラム② 駅周辺のバリアフリー化について



三ツ境駅北口のバリアフリー化



並木北駅のバリアフリー化

誰もが使いやすい移動環境を確保するため、三ツ境駅から北口バスターミナルまでの経路上にある北口歩道橋についてエレベーター設置工事に着手します。

また、シーサイドタウンからのバリアフリー経路を確保するため、並木北駅については金沢緑地側でエレベーター設置工事に着手し、幸浦駅についても設計を進めます。

3 まちの魅力創出

(1) 健康みちづくり推進事業 5,822万円 (5,571万円)

「健康みちづくり推進事業実施計画」に位置づけたルートにおいて、楽しみながら健康づくりに取り組める場を創出するため、案内板・距離標・ベンチの設置、舗装の新設・改修など、歩行空間の整備を進めます。

- ・戸塚区、栄区、旭区など5区、5ルート



舗装の改修
(栄区:花や鳥、豊かな自然に出会ういち川ルート)



案内版の設置
(都筑区:つつき五山と早淵川を歩くルート)

(2) みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路の再整備

4億700万円 <4億2,500万円> (250万円)

関内・関外地区の回遊性向上のため、みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路について、現状の車道空間の一部を転換する再整備により、安全で快適な歩行者空間の確保、自転車通行空間の確保を行います。

令和6年度より、みなと大通りの歩行者・自転車通行空間の確保に向けた道路工事に着手します。



再整備事業区間

コラム⑳ みなと大通りの歩道再整備による賑わいの創出

魅力ある道路空間とするため、令和2年11月に車道を歩行空間に転換する大規模な社会実験を実施しました。その結果を踏まえ安全で快適な歩行者・自転車通行空間、休憩施設の整備など歩道上の滞在空間の確保を行い、開業を控える旧市庁舎街区活性化事業などと併せ関内駅周辺地区の賑わいと活力づくりを推進します。



令和2年11月の社会実験の状況



整備イメージ

(3) 市民参加による河川環境の創出 550万円 (600万円)

川づくりを行いたい市民の方々に、川づくりの資材支援及び専門家を派遣する「横浜市川づくりコーディネーター制度」により、市民協働による河川環境整備を進めます。

コラム②④ 皆様の寄附（ふるさと納税）を活用して事業を進めていきます

お気に入りの場所にハマサポベンチ
を設置したい！
（健康みちづくり推進事業）

皆様からのメッセージを書いたプレート付きのベンチ（ハマサポベンチ）をルート上に設置します。



ハマサポベンチ
（神奈川区：水と緑豊かな安らぎのルート）

アユ・ホタルが棲める水辺を守りたい！
（自然豊かな川づくりの推進）

旭区の中堀川と金沢区の宮川で、ふるさと納税を活用しながら、市民協働による生物多様性に配慮した川づくり活動を行っています。



川づくり活動(河床に石を組んで作った生き物の棲み家)
（宮川：金沢区釜利谷南）

(4) 市民協働による美化活動の推進 1,956万円 (1,963万円)

ア ハマロード・サポーター 974万円 (981万円)

自治会・町内会、企業等の団体による市道の清掃、美化活動を支援します。

- ・支援団体 578団体（令和5年12月31日時点）
- ・支援内容 清掃用具、ごみ袋の支給等
- ・全体交流会 永年活動表彰、国土交通大臣表彰等

令和5年度 国土交通大臣表彰受賞団体



永楽町 ハマロード・サポーター(南区)



能見台五丁目ハマロードサポーター(金沢区)



かちだ連合ハマロード・サポーター(都筑区)

イ 水辺愛護会活動支援事業 982万円（982万円）

地域や有志の方々により構成された団体による河川や水辺施設の美化活動を支援します。

- ・ 支援団体 95団体（令和5年12月31日時点）
- ・ 支援内容 水辺環境の美化活動に対する補助金の交付、自走式草刈機貸与、既存団体の活性化や新規団体結成を目的として広報等の支援や活動現場の確認を行う水辺愛護会コーディネーター（仮称）の配置



令和5年度国土交通大臣表彰 受賞団体
本郷せせらぎ愛護会(瀬谷区)



令和5年河川功労者表彰 受賞団体
集いのまほろば水辺愛護会(泉区)



草刈推進のための刈払機貸与制度
二ツ橋水辺愛護会(瀬谷区)

コラム②⑤ 「水辺愛護会、ハマロード・サポーター全体交流会」について

水辺愛護会及びハマロード・サポーターの交流の場として「水辺愛護会、ハマロード・サポーター全体交流会」を令和元年度から開催しています。全区の団体が一堂に会して、活動内容を共有するための事例発表や、永きにわたり活動いただいている団体等への表彰状授与、記念撮影を実施しています。5年度の表彰団体数は、50団体でした（令和5年10月開催）。



市長からの表彰状授与



事例発表



記念撮影

コラム②⑥ DX実現に向けた取組

現場市民サービスの向上のため、デジタル化の取組を進めています。

●タブレット端末活用による現場業務のペーパーレス・オンライン化を進めます！

土木事務所には多くの現場業務があり、現場の都度、必要な書類等を印刷、持参し対応を行っています。土木事務所の職員が現場にタブレット端末を携行することにより様々な業務の効率化を図ります。必要な資料は、タブレット端末で閲覧しペーパーレス化を図ります。

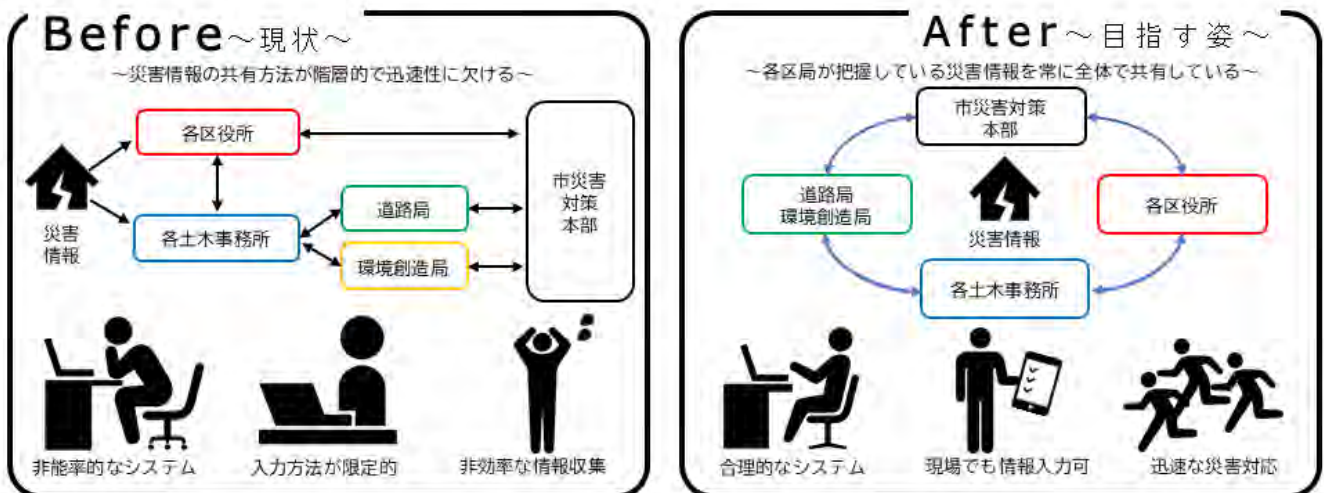
タブレット活用による業務効率化のイメージ



●土木防災情報システム改修と横浜市危機管理システムとの連携を進めます！

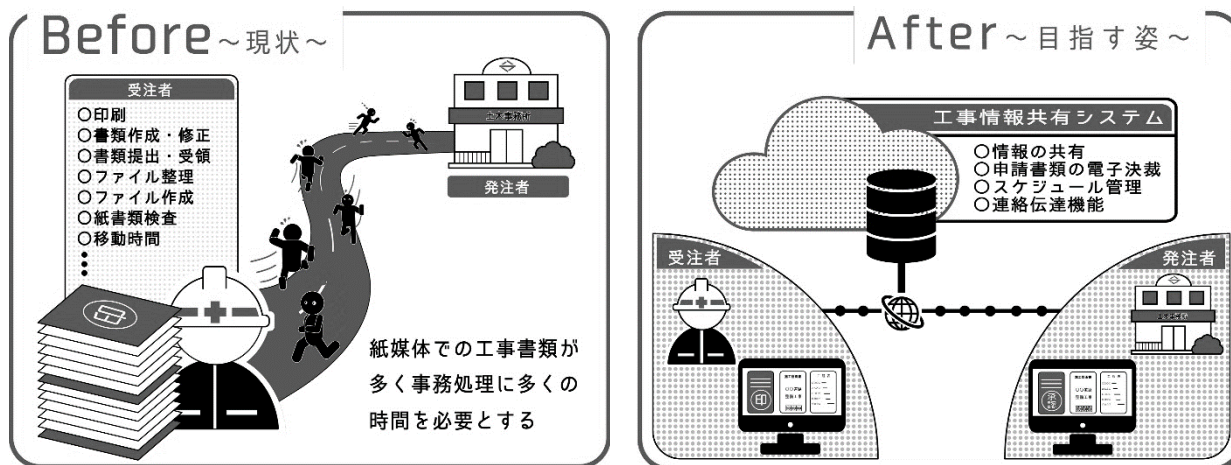
道路局と土木事務所が災害時に使用している「土木防災情報システム」は、システムの仕様が古く、他のシステムとの連携もないなど、改善が必要な状況です。

令和6年度末までに、本市が災害時に使用している「危機管理システム」と連携可能な、新たな土木防災情報システムを構築し、現場と関係区局の情報共有をクラウド上で行うことで、災害対応の円滑化・迅速化を図ります。



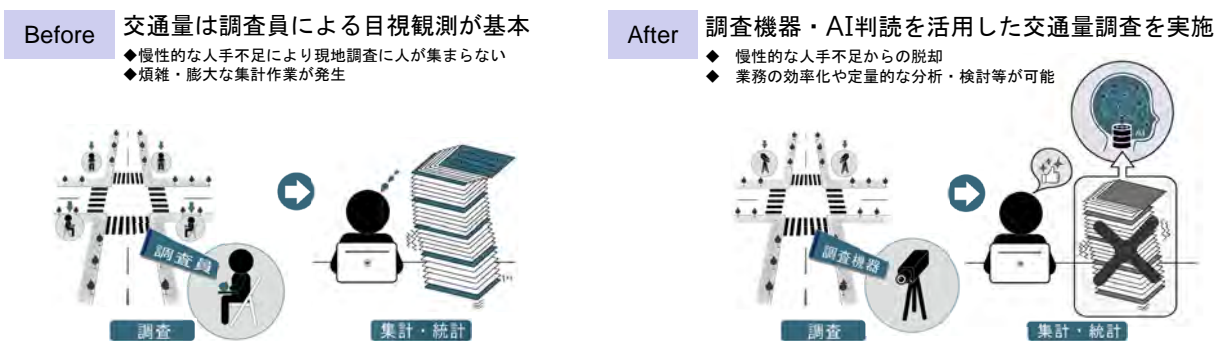
●土木工事の情報共有システムの利用を促進します！

情報共有システムを利用することで、工事書類の提出や受領等をWebで行うことが可能になります。時間のかかる紙媒体での事務処理が削減することで、業務の効率化を図ります。



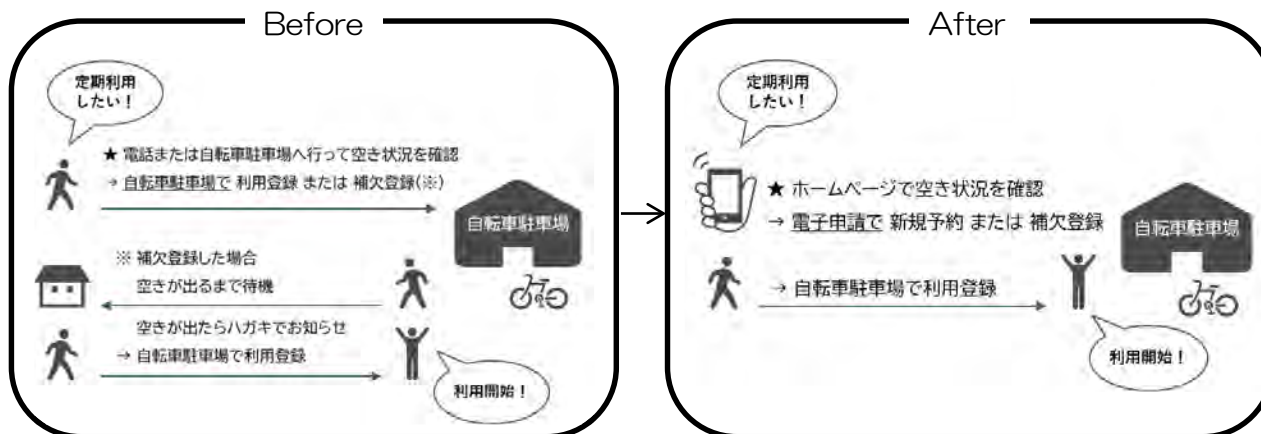
●交通量調査の効率化に向けて、ICT技術の活用を進めます！

交通量調査は、基本的に人手により観測していますが、慢性的な人手不足や煩雑な集計作業などが課題となっており、人手不足に左右されない持続可能な手法の確保や、業務の効率化などを目指し、ICT技術の活用を図ります。令和6年度は、民間提案による技術募集を行うなど、導入に向けた検討を進めます。



●市営自転車駐車場の定期利用申請の新規予約及び補欠登録のオンライン受付を開始します！

市営自転車駐車場の定期利用申請における新規予約及び補欠登録について、令和6年6月から「横浜市電子申請・届出システム」によるオンライン受付の本格実施を開始します。



4 財源確保の取組

(1) 高架下等有効活用事業

道路高架下・道路予定区域等の未利用地を駐車場などとして有効活用し、その収入を事業用地等の維持管理財源に充当します。

- ・歳入充当額 1億円 (7,978万円)
- ・活用箇所数 36箇所



【高架下等有効活用事業】南区二葉一丁目

(2) 広告事業

道路施設・道路空間を広告事業によって有効活用し、その収入をエレベーター等の維持管理財源に充当します。

- ・歳入充当額 2,956万円 (3,203万円)
- ・JR桜木町駅前広場イベントスペースの運営
- ・みなとみらい21地区における広告フラッグ掲出
- ・駅自由通路などの道路施設における広告掲出



【広告事業】東戸塚駅

(3) 道路施設におけるネーミングライツ事業

道路施設に愛称を命名することができる権利を売却し、その収入を道路等の維持管理財源に充当します。

- ・歳入充当額 404万円 (410万円)
- ・活用箇所数 7箇所



【ネーミングライツ事業】
Honda Cars 横浜三ツ沢歩道橋

(4) 道路事業予定地の利活用

事業に先行して取得した道路事業予定地について、工事着手までの間の利活用を図ることで、その収入を事業用地等の維持管理財源に充当します。

- ・歳入充当額 5,174万円 (5,062万円)
- ・活用箇所数 17箇所



【道路事業予定地の利活用】泉区中田西二丁目

(5) 雨水調整池上部空間の利活用

野庭団地第一雨水調整池の上部空間を民間事業者へ貸付け、土地の効果的な活用及び地域活性化等を図ります。

- ・令和5年12月：公募開始
- ・令和6年7月：事業予定者決定



【雨水調整池上部の利活用】野庭団地第一雨水調整池

令和6年度 道路局予算案

（ 令和6年度予算は令和5年度12月・2月補正の一部を含みます。
また、令和5年度予算は令和4年度2月補正の一部を含みます。）

（ 単位：千円）

	令和6年度	令和5年度	増▲減額	増▲減率
一般会計	75,087,577	75,361,731	▲ 274,154	▲ 0.4%
13款 道路費	68,877,093	69,128,866	▲ 251,773	▲ 0.4%
1 項 道路維持管理費	26,196,964	25,689,593	507,371	2.0%
1 目 道路行政総務費	6,233,120	6,200,415	32,705	0.5%
2 目 道路等管理費	3,260,970	3,201,302	59,668	1.9%
3 目 道路等維持費	14,399,207	13,998,301	400,906	2.9%
4 目 自転車政策推進費	2,303,667	2,289,575	14,092	0.6%
2 項 道路整備費	42,680,129	43,439,273	▲ 759,144	▲ 1.7%
1 目 道路特別整備費	15,085,815	16,019,260	▲ 933,445	▲ 5.8%
2 目 街路整備費	23,593,129	22,696,890	896,239	3.9%
3 目 高速道路等整備費	77,518	92,461	▲ 14,943	▲ 16.2%
4 目 道路費負担金	3,923,667	4,630,662	▲ 706,995	▲ 15.3%
14款 河川費	5,545,132	5,466,769	78,363	1.4%
1 項 河川費	5,545,132	5,466,769	78,363	1.4%
1 目 河川管理費	1,920,556	1,862,193	58,363	3.1%
2 目 河川整備費	3,624,576	3,604,576	20,000	0.6%
19款 諸支出金	665,352	766,096	▲ 100,744	▲ 13.2%
1 項 特別会計繰出金	665,352	766,096	▲ 100,744	▲ 13.2%
11 目 自動車駐車場事業費会計繰出金	115,255	236,959	▲ 121,704	▲ 51.4%
13 目 公共事業用地費会計繰出金	550,097	529,137	20,960	4.0%

単位：千円）

	令和6年度	令和5年度	増▲減額	増▲減率
特別会計 自動車駐車場事業費会計	259,428	350,799	▲ 91,371	▲ 26.0%
1 款 自動車駐車場事業費	259,428	350,799	▲ 91,371	▲ 26.0%
1 項 運営費	199,173	212,175	▲ 13,002	▲ 6.1%
1 目 自動車駐車場運営費	199,173	212,175	▲ 13,002	▲ 6.1%
2 項 公債費	55,255	133,624	▲ 78,369	▲ 58.6%
1 目 元金	54,327	131,844	▲ 77,517	▲ 58.8%
2 目 利子	922	1,762	▲ 840	▲ 47.7%
3 目 公債諸費	6	18	▲ 12	▲ 66.7%
3 項 予備費	5,000	5,000	0	0.0%
1 目 予備費	5,000	5,000	0	0.0%

1		(13款1項1目) 道路行政総務費		道路行政全般にかかる諸経費の支出を行います。	
本年度	千円	6,233,120		<u>1 職員人件費</u>	5,902,643千円 (5,894,152)
前年度		6,200,415		・一般職 665人、再任用職員 47人	
差引		32,705		<u>2 技術監理費</u>	46,382千円 (33,673)
本年度の財源	国・県支出金	0		・労務・資材費調査委託費及び技術研修等にかかる経費	
	使用料	171,199		<u>3 総務管理費</u>	19,371千円 (8,130)
	諸収入等	3,050		・事務費、各種講習等受講費用等	
	市債	0		<u>4 道水路等境界調査費</u>	83,786千円 (83,786)
	一般財源	6,058,871		・道路及び水路等と民有地との境界を確定する経費	
				<u>5 道路台帳整備費</u>	180,938千円 (180,674)
				・道路台帳整備のための測量・調査費等	

2		(13款1項2目) 道路等管理費		歩行者と車両の安全な交通を確保するため、道路の適切な管理を行います。	
本年度	千円	3,260,970		<u>1 道路管理事業費</u>	234,103千円 (248,426)
前年度		3,201,302		・道路占用・掘削許可、貸付地管理、道路原因者事故の賠償等	
差引		59,668		<u>2 道路管理システム運用事業費</u>	101,935千円 (102,061)
本年度の財源	国・県支出金	5,580		・道路管理システムの運用	
	使用料	1,864,593		<u>3 ハマロード・サポーター事業費</u>	9,742千円 (9,812)
	諸収入等	335,507		・ハマロード・サポーターの活動支援	
	市債	43,000		<u>4 道路清掃費</u>	960,199千円 (904,500)
	一般財源	1,012,290		・道路、駅前広場等の清掃	
				<u>5 道路照明費</u>	1,189,586千円 (1,133,086)
				・道路照明灯の維持管理	
				<u>6 エレベーター等管理費</u>	547,518千円 (567,150)
				・エレベーター・エスカレーター等の維持管理	
				<u>7 共同溝管理費</u>	178,096千円 (192,103)
				・みなとみらい2 1及び港北ニュータウン共同溝の維持管理	
				<u>8 自由通路管理費</u>	36,909千円 (41,010)
				・大船駅北口の自由通路の維持管理	
				<u>9 高架下等有効活用事業費</u>	2,882千円 (3,154)
				・検討会運営費等	

3 (13款1項3目) 道路等維持費				
本年度	千円 13,399,207 <14,399,207>	道路の安全を維持するために道路の修繕を行うほか、街路樹の維持管理を行います。		
前年度	千円 12,998,301 <13,998,301>	1 道路修繕事業費 9,999,226千円 <10,999,226千円 > (10,890,073)		
差引	400,906 <400,906>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な道路修繕 ・緊急を要する道路修繕 		
本年度の財源	国・県 支出金	10,000 <10,000>	2 私道対策事業費 55,000千円 (50,000)	
	使用料	5,106,231 <5,106,231>	<ul style="list-style-type: none"> ・私道整備助成、私道整備 	
	諸収入等	217,615 <217,615>	3 街路樹管理事業費 1,807,096千円 (1,757,096)	
	市債	2,004,000 <2,004,000>	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹及び植樹帯の維持管理 ・街路樹点検 ・街路樹保全のための改良工事 	
	一般財源	6,061,361 <7,061,361>	4 公道移管測量助成費 32,400千円 (36,000)	
<ul style="list-style-type: none"> ・<>は12月補正の一部を含む ・前年度予算の内訳は2月補正の一部を含む 		<ul style="list-style-type: none"> ・公道移管測量費助成金 ・公区混乱地域内測量費助成金 	5 認定路線管理費 15,480千円 (13,240)	
			6 交通安全対策事業費 965,005千円 (953,548)	
			<ul style="list-style-type: none"> ・防護柵、区画線、あんしんカラーベルト、誘導用ブロック等交通安全施設の維持・補修や整備 ・交通安全の周知、啓発及び教育 	7 子どもの通学路交通安全対策事業費 525,000千円 (298,344)
			<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全推進校選定地区における防護柵、区画線、ハンブ、誘導用ブロック等、交通安全施設の維持・補修や整備 ・令和5年度対策箇所における効果検証 	

4 (13款1項4目) 自転車政策推進費			
本年度	千円 2,303,667	「横浜市自転車活用推進計画」に基づき、自転車利用のルール・マナーの周知、駐輪環境の向上及び放置防止対策、自転車の活用に向けた取組などの自転車施策を総合的に進めます。	
前年度	2,289,575	1 放置自転車等移動・保管事業費 374,890千円 (373,140)	
差引	14,092	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺の放置禁止区域に放置された自転車の移動等 ・横浜市内鉄道駅周辺放置実態調査 ・各区における自転車マナーアップ監視員による啓発 	
本年度の財源	国・県 支出金	0	2 有料自転車駐車場運営事業費 1,846,178千円 (1,846,178)
	使用料	2,261,316	<ul style="list-style-type: none"> ・市内240箇所、約10万台の有料自転車駐車場の運営 ・建物式有料自転車駐車場の補修等
	諸収入等	5,411	3 自転車活用推進計画事業費 47,599千円 (33,457)
	市債	0	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車活用推進計画に掲げた施策の推進 ・広域シェアサイクル事業の展開に向けた社会実験の実施等
	一般財源	36,940	4 民営施設整備助成費 9,000千円 (10,000)
			5 自転車駐車場等整備費 26,000千円 (26,800)

5		(13款2項1目) 道路特別整備費		
本年度		千円 13,927,565 <15,085,815>	<p>幹線道路や歩道、電線共同溝の整備、踏切安全対策やバリアフリーの推進、橋梁の地震対策及び点検や老朽化対策などを実施します。</p> <p>1 幹線道路の整備</p> <p>(1) 都市計画道路の整備 2,802,463千円 (3,471,400) <2,960,713千円></p> <p>(2) 国道の整備 186,400千円 (643,737)</p> <p>2 地域の道路整備と交通施策</p> <p>(1) 道路改良の推進 1,502,649千円 (1,309,499)</p> <p>(2) 踏切安全対策の推進 521,600千円 (441,600)</p> <p>(3) バリアフリーの推進 503,267千円 (155,630)</p> <p>(4) 戸塚駅周辺の交通混雑緩和 15,000千円 (23,604)</p> <p>(5) 健康みちづくりの推進 58,224千円 (55,706)</p> <p>(6) 無電柱化の推進 1,226,778千円 (1,130,304) <1,393,778千円></p> <p>(7) 自転車通行空間の整備 71,000千円 (106,000)</p> <p>(8) 米軍施設返還跡地関連道路の検討 15,000千円 (20,000)</p> <p>(9) 鶴見川中下流域の橋梁新設 120,500千円 (1,230,500) <330,500千円></p> <p>3 道路等の維持・管理</p> <p>(1) 道路がけの防災対策 424,800千円 (124,800)</p> <p>(2) エレベーター、案内標識等の整備 271,900千円 (240,400)</p> <p>(3) 歩道橋の耐震対策・長寿命化 548,580千円 (880,580) <971,580千円></p> <p>(4) 路面下空洞調査 30,000千円 (30,000)</p> <p>4 橋梁・トンネル等の維持・管理</p> <p>(1) 橋梁の地震・老朽化対策 5,212,313千円 (5,777,213) <5,412,313千円></p> <p>(2) トンネル等の老朽化対策 417,091千円 (378,287)</p>	
前年度		15,764,231 <16,019,260>		
差引		▲ 1,836,666 <▲933,445>		
本年度の財源	国・県 支出金	6,132,856 <6,704,393>		
	使用料	0 0		
	諸収入等	620,593 <720,593>		
	市債	4,866,000 <5,350,000>		
	一般財源	2,308,116 <2,310,829>		
<p>・<>は2月補正の一部を含む</p> <p>・前年度予算の内訳は2月補正の一部を含む</p>				

6		(13款2項2目) 街路整備費		
本年度		千円 23,128,129 <23,593,129>	<p>都市計画道路の整備等を実施します。</p> <p>1 高速道路の整備 13,060,000千円 (13,284,600)</p> <p>(1) 横浜北西線(立替施行に伴う後年度支払い)</p> <p>(2) 横浜環状南線 関連街路</p> <p>2 幹線道路の整備 9,661,129千円 (9,409,790) <10,108,129千円></p> <p>(1) 都市計画道路の整備 6,451,129千円 (5,488,790) <6,898,129千円></p> <p>(2) 鶴ヶ峰連続立体交差事業 3,210,000千円 (3,921,000)</p> <p>3 みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路再整備 407,000千円 (2,500) <425,000千円></p>	
前年度		22,696,890 <22,696,890>		
差引		431,239 <896,239>		
本年度の財源	国・県 支出金	5,781,144 <6,035,994>		
	使用料			
	諸収入等	2,481,159 <2,481,159>		
	市債	4,883,000 <5,092,000>		
	一般財源	9,982,826 <9,983,976>		
<p>・<>は2月補正の一部を含む</p> <p>・前年度予算の内訳は2月補正の一部を含む</p>				

7		(13款2項3目) 高速道路等整備費	
本年度		千円	77,518
前年度			92,461
差引			▲ 14,943
本年度の財源	国・県支出金		0
	使用料		0
	諸収入等		102,263
	市債		0
	一般財源		▲ 24,745

市民生活の利便性の向上、経済活動の活性化に向け、高速道路ネットワーク整備を積極的に進めるとともに、高速道路に関する道路の整備等を進めます。
横浜環状道路の南線及び横浜湘南道路については関連街路を含め引き続き整備を進めます。

1 横浜環状南線関連街路整備事業費 3,700千円 (4,111)

2 高速道路調査事務費等 73,818千円 (88,350)

8		(13款2項4目) 道路費負担金	
本年度		千円	3,923,667
前年度			4,630,662
差引			▲ 706,995
本年度の財源	国・県支出金		102,000
	使用料		0
	諸収入等		0
	市債		3,821,000
	一般財源		667

国直轄事業（国道）に対して、道路法にもとづき負担金を支出します。

1 国道468号横浜環状南線及び横浜湘南道路 3,074,000千円 (3,595,333)
・首都圏中央連絡自動車道等の改築（幹線道路ネットワーク整備）

2 国道16号電線共同溝の整備 など 849,667千円 (1,035,329)

9		(14款1項1目) 河川管理費		
本年度	千円 1,920,556	<p>河川、水路等の点検や補修を適切に行うとともに、効率的な維持管理のため、計画的な保全を推進します。</p> <p>1 職員人件費 807,291千円 (791,990) ・一般職 101人、再任用職員 1人</p> <p>2 水政事業費 65,948千円 (61,886) ・河川・水路の占用許可システムの保守管理 ・水辺環境の美化活動に対する補助 ・水辺愛護会全体交流会の開催 ・川づくりコーディネーター制度の推進 など</p> <p>3 水防事業費 79,523千円 (79,523) ・水位計等の設置・更新、水防災情報システムの保守管理 ・親水拠点に設置されている警報装置の保守管理 ・水防資機材の備蓄・整備 など</p> <p>4 河川・水路等維持管理事業費 867,794千円 (828,794) ・堆積土砂の掘削 ・樹木伐採、除草 ・デジタル技術を活用したシステム導入 ・護岸、管理用通路、転落防止柵等の補修 ・ポンプ設備等の点検、補修、部品交換 など</p> <p>5 河道等安全確保緊急対策事業費 ・計画的な河道等の土砂掘削 100,000千円 (100,000)</p>		
前年度	1,862,193			
差引	58,363			
本年度の財源	国・県 支出金			0
	使用料			166,571
	諸収入等	16,840		
	市債	100,000		
一般財源	1,637,145			

10		(14款1項2目) 河川整備費		
本年度	千円 2,517,576 <3,624,576>	<p>激甚化、頻発化する水害に対し市民の生命・財産や都市機能を守り、市民の安全・安心を確保するため、「流域治水」の基盤となる河川改修や流域貯留施設の整備を推進します。また、河川管理施設の長寿命化対策として計画的な設備の更新等を実施します。さらに、治水機能を万全にするため、河道等の掘削及び除草等を行います。</p> <p>1 河川改修 2,017,576千円 (3,156,576) (1) 大規模特定河川事業費 <3,115,576千円> ・護岸改修、橋梁設計・新設 など (2) 都市基盤河川改修事業費 ・護岸改修、用地補償、管理用通路整備 など (3) 準用河川改修事業費 ・護岸改修、用地補償 など</p> <p>2 流域貯留浸透事業費 5,000千円 (13,000) <14,000千円> ・宮古A雨水調整池 既設雨水調整池容量拡大 など</p> <p>3 河川改良・老朽化対策事業費 など 164,000千円 (104,000) ・ポンプ排水型遊水地の長寿命化 ・河川保全計画に基づく護岸の長寿命化 ・河川環境施設の再整備に向けた基本構想策定</p> <p>4 河道等安全確保対策事業費 331,000千円 (331,000) ・河道内及び雨水調整池における堆積土砂掘削と除草 など</p>		
前年度	2,638,576 <3,604,576>			
差引	▲ 121,000 <20,000>			
本年度の財源	国・県 支出金			841,000 <1,549,000>
	使用料			0
	諸収入等	0		
	市債	560,000 <959,000>		
一般財源	1,116,576 <1,116,576>			

・<>は2月補正の一部を含む
・前年度予算の内訳は2月補正の一部を含む

11	(19款) 特別会計繰出金		自動車駐車場事業費会計、公共事業用地費会計及び生活交通バス路線維持支援事業に繰り出します。
	本年度	千円 665,352	
	前年度	766,096	
	差引	▲ 100,744	
本年度の財源	国・県支出金	0	1 自動車駐車場事業費会計繰出金 115,255千円 (236,959)
	使用料	0	・自動車駐車場事業費会計への繰出金
	諸収入等	0	2 公共事業用地費会計繰出金 550,097千円 (529,137)
	市債	0	・都市開発資金の償還のための公共事業用地費会計への繰出金
	一般財源	665,352	

12	(特別会計) 自動車駐車場事業費会計		安全で円滑な道路交通の確保のため、路上駐車対策として、6箇所の市営地下駐車場の管理運営を行います。
	本年度	千円 259,428	
	前年度	350,799	
	差引	▲ 91,371	
本年度の財源	国・県支出金	0	1 自動車駐車場運営費 199,173千円 (212,175)
	指定管理者収入	89,597	・福富町西公園地下駐車場 ・ポートサイド地下駐車場 ・馬車道地下駐車場 ・山下町地下駐車場 ・日本大通り地下駐車場 ・伊勢佐木長者町地下駐車場
	諸収入等	54,576	2 公債費 55,255千円 (133,624)
	市債	0	3 予備費 5,000千円 (5,000)
	一般会計繰入金	115,255	

令和6年度予算編成における「道路局の主な財源創出の取組」

令和6年度予算編成は、持続可能な市政運営を実現するため、「財政ビジョン」「中期計画」「行政運営の基本方針」の『3つの市政方針』に基づき、全庁一丸となって『創造・転換』を理念とする財源創出に、歳出・歳入の両面から取り組みました。

財源創出の内容	件数	財源創出額
「創造・転換」による財源創出(歳出削減の取組)		
実施内容の見直しによる経費の削減	5件	2,596千円
個人版ふるさと納税、地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)		
企業版ふるさと納税による歳入の確保	1件	13,000千円
その他の財源創出(決算等にあわせた見直し)		
事務経費の見直しによる経費の削減等	8件	4,391千円

道路局独自の取組

横浜環状北西線の道路構造物を売却した収入(426億円)を、事業費平準化のために実施している立替施行の支払い(R3~R6:R6は115億円)の財源として活用しています。

債務負担行為

事項	限度額	令和5年度末までの支出見込額		令和6年度以降の支出予定額		左の財源内訳			
		期間	金額	期間	金額	特定財源			一般財源
						国県支出金	市債	その他	
千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
末吉橋架替工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	6,200,000	令和元年度から令和5年度まで	1,810,649	令和6年度	918,400	197,560	161,000	559,200	640
				令和7年度から令和10年度まで	3,470,951	910,512	744,000	1,815,475	964
環状3号線(杉田港南台地区)電線共同溝の整備及び維持管理等の実施に係る予算外義務負担	3,400,000	令和5年度	37,994	令和6年度	279,388	279,388	—	—	—
				令和7年度から令和22年度まで	3,002,618	1,262,618	—	—	1,740,000
都市計画道路桜木東戸塚線(平戸地区)トンネル工事請負契約の締結に係る予算外義務負担	10,000,000		—	令和6年度	1,100,000	605,000	495,000	—	—
				令和7年度から令和13年度まで	8,900,000	4,895,000	4,005,000	—	—
(新規)道水路等境界調査業務委託契約	64,000		平準化債務:8,715 ゼロ市債務:54,850	令和7年度	64,000	—	—	3,000	61,000
(新規)道路用地管理工事請負契約	14,000		平準化債務:14,000	令和7年度	14,000	—	—	—	14,000
(新規)道路修繕工事請負契約等	2,600,000		平準化債務:1,176,000 ゼロ市債務:1,350,000	令和7年度	2,600,000	—	—	—	2,600,000
(新規)交通安全施設等整備及び補修工事請負契約	380,000		ゼロ市債務:375,000	令和7年度	380,000	—	—	—	380,000
(新規)橋梁補修工事請負契約	30,000		ゼロ市債務:30,000	令和7年度	30,000	—	—	—	30,000
(新規)末吉橋架替上部工事請負契約	1,300,000		—	令和7年度から令和9年度まで	1,300,000	357,501	291,000	650,000	1,499
(新規)都市計画道路用地管理工事請負契約	79,000		ゼロ市債務:79,000	令和7年度	79,000	—	—	—	79,000
(新規)都市計画道路横浜返子線(釜利谷六浦地区)トンネル工事請負契約	6,000,000		—	令和7年度から令和11年度まで	6,000,000	3,300,000	2,700,000	—	—
(新規)河川・水路等修繕工事請負契約	74,000		平準化債務:74,000	令和7年度	74,000	—	—	—	74,000
(新規)河川・水路等調査検討業務委託契約	45,000		平準化債務:45,000	令和7年度	45,000	—	—	—	45,000
(新規)河川整備工事請負契約	370,000		—	令和7年度	370,000	228,000	114,000	—	28,000
(新規)河川事業用地整備工事請負契約	12,000		平準化債務:12,000	令和7年度	12,000	—	—	—	12,000
(新規)河川設備長寿命化工事請負契約	30,000		ゼロ市債務:30,000	令和7年度	30,000	15,000	15,000	—	—

23ページのコラムにある【平準化債務】及び【ゼロ市債務】の設定額を、四角囲みで記載しています。

